2026

2026 科目ガイド

【Ⅰ部２年制写真科】

日本写真芸術専門学校

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部3年制3年 フォトフィールドワークゼミ

科目名	フォローアップ講座		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	教務課・キャリアセンター・山ノ手写真 安部先生		
授業概要	卒業年度に進級おめでとうございます。この授業では、(1)卒業作品展に向けた準備(2)就職やデビューに向けた準備、(3)キャリアに対する考え方や活動の進め方を中心に学んでいきます。卒業作品展に向けた準備ではいろいろな展示方法や、作家の紹介などを通じて、自分の作品に対するイメージを膨らませていきます。実際の制作に活かした、よい卒業作品展を目指しましょう。 また、(2)や(3)では実際に仕事の現場はどのような場所なのかを知ったり、キャリアの考え方を広げたり…。自分の生き方を考え直すきっかけにもするような発見や出会いをしてほしいと思っています。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	個別相談	進路調査・個別相談会
	2	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	3	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	4	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	5	企業研究	企業説明会③
	6	卒業研究	卒展制作
	7	卒業研究	卒展制作
	8	自己PR力UP	ポートフォリオレビュー
	9	卒業研究	卒展制作
	10	卒業研究	卒展に向けた準備①
	11	卒業研究	卒展に向けた準備②
	12	卒業研究	卒展に向けた準備③
	13	卒業研究	卒展に向けた準備④
	14	まとめ	授業調整日
	15	まとめ	一年のまとめ

評価方法	出席と授業態度、意欲、提出物で総合的に評価
テキスト	スクーの動画資料など。授業内で適宜指示します。

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制1年

科目名	写真表現基礎演習		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	馬場 磨貴		
授業概要	写真を撮るという行為は、カメラというメカニカルな道具を用い、感性を伴った眼で捉えた事象を記録・定着させる作業である。写真表現には様々な技法がある。本授業では、それらがどのように表現に関わっていくのかを、実習を通して学ぶ。また、他者に伝える意図や撮影の目的を明確にし、それを映像として形にするための基礎を身につけること。それがこの授業の柱である。考える事と同じくらい重要なのは、体を動かすことである。できる限り未知の世界に触れ、見て、シャッターを押し、プリントすることを大切にする。写真に費やした努力を、写真は裏切らない。表現者としての豊かな大地をつくる一年にしたい。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	写真の主題	オリエンテーション
	2	カメラワーク	露出・ピント・WBを使った表現を知る/課題1
	3	カメラワーク	シャッタースピード・絞りを使った表現を知る/課題2
	4	全体講評	課題1.2の合評/『三社祭』発表（フレーミング、レンズを意識）
	5	撮影実習	課題3『三社祭』屋外撮影を実施
	6	撮影実習	課題3『三社祭』屋外撮影を実施
	7	中間講評	課題3『三社祭』
	8	全体講評	課題3『三社祭』
	9	カメラワーク	構図について
	10	カメラワーク	組み写真について/課題4
	11	中間講評	課題4 中間アドバイス
	12	全体講評	課題4講評/課題5説明
	13	中間講評	課題5 中間アドバイス
	14	全体講評	課題5講評
	15	中間講評	前期末中間審査
後期	1	撮影実習	課題6
	2	中間講評	課題6 中間アドバイス
	3	全体講評	課題6 講評
	4	撮影実習	課題7
	5	中間講評	課題7 中間アドバイス
	6	全体講評	課題7 講評
	7	講義	課題8
	8	中間講評	課題8 中間アドバイス
	9	中間講評	課題8 中間アドバイス
	10	全体講評	課題8 講評
	11	講義	課題9
	12	中間講評	課題9 中間アドバイス
	13	全体講評	課題9 講評
	14	中間講評	進級審査課題中間審査
	15	中間講評	進級審査課題中間審査

評価方法	出席及び熱意　作品の完成度（写真の上手だけでなく、成長も評価する）
テキスト	写真集やオリジナル資料等

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制1年

科目名	写真撮影基礎演習		
開講期	前期	単位数	3
講師名	秦 達夫		
授業概要	写真を通して人に何かを伝えるためには、被写体の状態を的確に捉え、最適な機材を選択し、適切な設定を行うことが不可欠です。 本授業では、表現そのものに重点を置くのではなく、自分が伝えたい内容を的確に表現するための基本的な撮影技術、カメラやレンズなど機材の特性理解を中心に学びます。 将来、さまざまな分野へ進むために不可欠となる、技術的な基礎力の習得を目的とします。 【到達目標】 ・写真撮影の基礎を習得し、応用力を身に付けるための準備を整える。		

授業計画	回数	主題・目的	日程	授業予定
前期	1	点検・仕組み	2026/4/23	オリエンテーション　カメラの点検法・実写
	2	露出	2026/4/30	絞り・シャッター速度・適正露出・ヒストグラム
	3	フラッシュ①	2026/5/7	同調速度、GN、調光、ストロボを使用した撮影方法
	4	フラッシュ②	2026/5/14	同調速度、GN、調光、ストロボを使用した撮影方法
	5	画面構成①	2026/5/21	構図、画面構成（アングル、ポジション、ディスタンス）
	6	画面構成②	2026/5/28	レンズの効果、画角とパース、焦点距離／前期のまとめ
	7	作品講評	2026/6/4	撮影技術の基礎を確認
	8	写真用品解説	2026/6/11	フィルターの種類と使い方、三脚の使用法と選び方
	9	光源と色①	2026/6/18	光の種類、ライティングポジション（順光・逆光・斜光など）
	10	光源と色②	2026/6/25	デジタルカメラの特性、ＷＢの解説
	11	写真展探訪	2026/7/2	オリジナルプリオンとを見る
	12	写真展担保	2026/7/9	写真展　作品流れを読み解く
	13	まとめ	2026/7/16	撮影マナーとルール　まとめ
	14	－	2026/7/23	※休講とし、6月14日の御岳山撮影実習に振り替えます。
	15	－	2026/9/3	※休講とし、6月14日の御岳山撮影実習に振り替えます。
後期	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

評価方法	出席、提出物にて評価します。
テキスト	

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制1年

科目名	写真撮影基礎演習		
開講期	前期	単位数	3
講師名	五十嵐 太二		
授業概要	写真を通して人に何かを伝えるには、被写体の状態を的確に捉え、最適な機材の選択と設定が必要になります。この授業は表現そのものではなく、自分が伝えたい内容を表現するための基本的な撮影技術、カメラやレンズなど機材の特性を理解すること、そして将来、様々な分野に進むために不可欠となる技術的土台を作ることを目的とします。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	カメラの点検	オリエンテーション。カメラの点検法・実写
	2	カメラの仕組	一眼レフの仕組みと特性・写真の三大失敗
	3	露出① 絞り	適正露出、絞りの表現効果、被写界深度
	4	露出②シャッター	シャッタースピードの効果、相反則
	5	露出③	EV、露出補正、ヒストグラムの見方
	6	フラッシュ①	同調速度、ＧＮ、調光、ストロボを使用した様々な撮影法
	7	フラッシュ②	同調速度、ＧＮ、調光、ストロボを使用した様々な撮影法
	8	画面構成①	構図、画面構成（アングル、ポジション、ディスタンス）
	9	画面構成②	レンズの効果・画角とパース・焦点距離、前期のまとめ
	10	作品講評	撮影技術の基礎を確認
	11	写真用品解説	フィルターの種類と使い方、三脚の使用法と選び方
	12	光源と色①	光の種類、ライティングポジション（順光、逆光、斜光etc）
	13	光源と色②	デジタルカメラの特性、ＷＢの解説
	14	撮影マナー	撮影時のマナーやルール
	15	まとめ	不明点等をクリアにする
後期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

評価方法	出席、習熟度、課題作品、授業態度などを総合的に評価。
テキスト	授業配布プリント

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制1年

科目名	画像処理Ⅰ		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	柳井　隆宏		
授業概要	Macの基本操作の習得と、デジタルカメラでの撮影を通して画像データの扱い方を学びます。主に業界標準の画像処理ソフトAdobePhotoshopとAdobeBridge、AdobeLightroomClassicを使用し、画像データの取り込みとセレクト、トーン調整、ディテール調整、部分補正や合成等の画像処理を理解しインクジェットプリンタによる写真出力の実習を通して作品作りを行います。 【到達目標】		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業説明	授業内容、課題などの説明。自己紹介。目標を定める。
	2	Macの操作	MacOS、Finderを理解する。画像の取り込み。
	3	デジタルカメラ	デジカメの基本操作、ヒストグラムを理解する。
	4	データ管理	Bridgeによるデータ管理、データの保存。コンタクトシート作成。
	5	プリント	インクジェットプリンタの使用法。
	6	Raw現像	Photoshopでのレタッチ。Raw現像。
	7	階調調整	レベル補正、トーンカーブ、色相彩度を使用する。
	8	レイヤー	調整レイヤー、レイヤーを理解する。
	9	部分補正	写真の一部のトーンを補正する。レイヤーマスクを使用する
	10	画像修正	スタンプツール等を使用し修正する。
	11	授業調整日	作品作成。未履修学生のフォロー。
	12	画像解像度	入力、出力解像度、画素数等を理解する。
	13	プリント	高度なプリント、プロファイルを理解する。
	14	課題作成	前期末課題の作成。
	15	前期まとめ	課題提出。前期のまとめ。
後期	1	後期授業説明	前期課題の講評、後期授業のガイダンス。
	2	選択範囲	様々な選択範囲ツールを使用して画像を一部を補正。
	3	クイックマスク	クイックマスク、ペンタブレットを使用する。合成作品を作成する。
	4	スキャナー	フィルムスキャンしデータ化する。
	5	画像修正	スキャニングした画像データのゴミ取り。
	6	デジタルカメラ	カメラの仕組み、bit数を理解する。
	7	デジカメ撮影	ホワイトバランス、ISO感度、ピクチャースタイルを理解する
	8	Lightroom	LightroomClassicを使用する。
	9	フィルター	シャープ、ぼかし、その他フィルターを使用する。
	10	ポートレート	フィルターなどを使いこなし、ポートレート写真をレタッチする。
	11	モノクロ表現	カラー画像をモノトーン化する。
	12	色管理	色空間、プロファイル、CMSを理解する。
	13	授業調整日	作品作成。未履修学生のフォロー。
	14	課題提出	後期期末課題提出
	15	課題講評まとめ	後期末課題講評。授業のまとめ。

評価方法	授業の出席回数と授業内課題、期末課題を基本とし学習態度や作成作品のクオリティを考慮する
テキスト	オリジナルテキストをPDFファイルで配布

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制1年

科目名	スタジオ演習		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	佐藤 和恵		
授業概要	スタジオ演習では、プロを志す人が撮影において必要となる基本的な光の種類やライティング、撮影までのプロセスを、1年生で身につけるべき基礎的な知識と技術を中心に、順序立てて学んでいきます。 実習では、撮影機材の種類から使い方までを年間を通して学習し、自分自身の写真表現に結びつくフレームワークやライティング方法、露光の調整、イメージづくりなどを、実習を通して身につけていきます。 学生一人ひとりが興味を持てる授業内容とし、個々の相談にも対応していきます。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	年間説明、カメラの使い方、カメラの種類
	2	写真基礎①	撮影に必要な基礎的な知識の説明①
	3	写真基礎②	撮影に必要な基礎的な知識の説明②
	4	スタジオ機材の扱い方①	スタジオ撮影に使用する機材の種類と説明
	5	スタジオ機材の扱い方②	大型ストロボの使い方
	6	光について①	露出計を使用した露出の考え方
	7	光について②	光の種類を知って、光をコントロールする①
	8	光について③	光の種類を知って、光をコントロールする②
	9	光について④	光の質感について①
	10	光について⑤	光の質感について②
	11	撮影環境を整える	撮影環境の整え方、テザー撮影について
	12	商品撮影の種類①	商品撮影の種類とその方法①
	13	商品撮影の種類②	商品撮影の種類とその方法②
	14	商品撮影の種類③	商品撮影の種類とその方法③
	15	前期のまとめ	前期のまとめ、スタジオ演習授業内テスト
後期	1	イメージを表現する①	シズル感の表現とイメージ構成 スイーツ編①
	2	イメージを表現する②	シズル感の表現とイメージ構成 スイーツ編②
	3	イメージを表現する③	朝ごはん編
	4	クリップオンストロボ①	クリップオンストロボ 基礎編
	5	クリップオンストロボ②	クリップオンストロボ 応用編
	6	イメージを表現する④	化粧品編① 映り込み
	7	イメージを表現する⑤	化粧品編② シズル
	8	イメージを表現する⑥	靴編
	9	合成を考えた撮影①	合成を前提とした撮影を考える
	10	合成を考えた撮影①	合成を前提とした撮影を考える
	11	広告制作①	グループに分かれての広告制作①
	12	広告制作②	グループに分かれての広告制作②
	13	広告制作③	グループに分かれての広告制作①
	14	広告制作④	グループに分かれての広告制作②
	15	後期のまとめ	後期のまとめ、スタジオ演習 授業内テスト

評価方法	各実習製作に於ける提出作品、理解力、積極性、授業態度による絶対評価
テキスト	

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制1年

科目名	現代写真論		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	鳥原 学		
授業概要	写真は「撮る」「見る」「撮られる」という三つの要素で成り立っています。より良い写真を「撮る」ために、写真家には写真を「見る」能力と、「撮られる」側のことを考える能力が不可欠。これは、多くの写真を見ることでしか身につきません。それも自分のセンスに頼るだけではなく、ポイントを押さえて考えながら見ること。現代の写真表現は非常に多様であり、使う技術や発表するメディア、なによりテーマの幅が非常に広いからです。この授業ではジャンルごとに現代写真の流れを紹介しながら、資料的な映像の鑑賞などを行い、理解を深めていきます。授業構成は前期が基礎として「表現とコミュニケーション」、後期が「多様な表現」をテーマとしています。テキストとして「教養としての写真全史（筑摩選書）」を使用します。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	オリエンテーション(学校でのワークショップ形式)
	2		カメラの楽しみを知る(三葉堂寫眞機店)
	3		イントロダクション「カメラとこの社会」
	4		ポートレイト「写真の社会的役割」
	5		ポートレイト「理想と現実」
	6		スナップショット「手軽な写真」
	7		スナップショット「“決定的瞬間”以降」
	8		ビジュアルコミュニケーションの誕生「1920~30年代の映像実験」
	9		報道とドキュメント　1「記録と宣伝」
	10		報道とドキュメント　2「印刷メディアとジャーナリズム」
	11		ワークショップ(写真集の見方の指南)
	12		報道とドキュメント　3「フォトジャーナリストの主体化」
	13		広告写真　1「消費社会の原動力」
	14		広告写真　2「産業化と社会へのメッセージ」
	15		広告写真　3「音楽産業の拡大と写真の影響」
後期	1		芸術と写真①「芸術写真の可能性と限界」
	2		芸術と写真②「ストレイトフォト」
	3		写真展観覧
	4		芸術と写真③「アヴァンギャルド」
	5		芸術と写真④「日本の「芸術写真」
	6		芸術と写真⑤「写真表現と美術館の関係」
	7		芸術と写真⑥「現代写真の性質」
	8		ファッションと写真①「ライフスタイルの芸術化」
	9		ファッションと写真②「多様性の受容」
	10		写真と身体表現①「ヌード、ネイキッド、ポルノ」
	11		写真と身体表現②「ヌードの変化」
	12		写真と身体表現③「「きれいな裸」をめぐって」
	13		ワークショップ(プリントスタディ)
	14		自然と写真①「写真史のもうひとつの起源」
	15		自然と写真②「生態観察と文化人類学的視点」

評価方法	授業アンケートの質および期末レポート課題、ならびに出席回数を厳守とします。 注意：アンケートや課題に不正（Webからのコピー＆ペースト、他人による作成など）が発覚した場合、出席回数にかかわらず落第とします。
テキスト	教養としての写真全史（筑摩選書）必須。各自購入すること。

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部1年留学生

科目名	異文化交流演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	藤谷 啓雄		
授業概要	①講義による説明 ②ペアワーク・グループワーク・ロールプレイ 【到達目標】 ・日本語基礎会話ができる。 ・敬語を用いたビジネス基礎会話ができる。 ・面接で自分の考えを論理的に伝えられる。 ※授業内容は受講者の習熟度や関心に応じて変更する場合がある。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業内容の説明と進め方
	2	自己紹介	自分のことを話す練習
	3	学校	日本語基礎会話Ⅰ　授業場面Ａ
	4	学校	日本語基礎会話Ⅱ　授業場面Ｂ、事務室
	5	依頼・許可	日本語基礎会話Ⅲ　授業場面、事務室
	6	依頼・許可	日本語基礎会話Ⅳ　日常生活Ａ
	7	依頼・許可	日本語基礎会話Ⅴ　日常生活Ｂ
	8	意見・感想	日本語基礎会話Ⅵ　授業場面Ａ
	9	意見・感想	日本語基礎会話Ⅶ　授業場面Ｂ
	10	意見・感想	日本語基礎会話Ⅷ　日常生活Ａ
	11	意見・感想	日本語基礎会話Ⅸ　日常生活Ｂ
	12	基礎	ビジネスマナーと接遇Ⅰ
	13	基礎	ビジネスマナーと接遇Ⅱ
	14	基礎	ビジネスマナーと接遇Ⅲ　簡単な模擬面接
	15	総合	まとめ
後期	1	ガイダンス	前期の復習
	2	説明	続・日本語基礎会話Ⅰ
	3	比較	続・日本語基礎会話Ⅱ
	4	理由説明	続・日本語基礎会話Ⅲ
	5	提案	続・日本語基礎会話Ⅳ
	6	問題解決	続・日本語基礎会話Ⅴ
	7	発表	続・日本語基礎会話Ⅵ
	8	発表	続・日本語基礎会話Ⅶ
	9	ガイダンス	就職のための日本語Ⅰ
	10	敬語	就職のための日本語Ⅱ　ビジネス敬語
	11	自己ＰＲ	就職のための日本語Ⅲ　自分の強み・経験を整理
	12	志望動機	就職のための日本語Ⅳ　志望動機への質問と答え方
	13	面接応答	就職のための日本語Ⅴ　よく聞かれる質問への応答練習
	14	模擬面接	就職のための日本語Ⅵ
	15	模擬面接	就職のための日本語Ⅶ

評価方法	出席、授業態度、発表、課題提出などを総合的に評価する。
テキスト	第1回の授業において指示する。

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制1年

科目名	映像表現演習		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	岩崎 孝正		
授業概要	人気の写真家やフォトグラファーが、映像を撮り、展示することも多くなった。また、社会に出たら、仕事の面で、写真だけでなく映像を求められることも多々あるだろう。一眼レフカメラで映像を撮れるようになってから、大体、18年くらい経つ。 この授業では映像の感性を磨く。映像の仕事は、写真といかに違うのか。企画から撮影、編集技術を学び、皆の映像の仕事が捗るように、背中を押していくつもりです。 【到達目標】 ・スペック広告や制作した映像をポートフォリオに入れられるようにする		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	映像概論	映像制作の流れ・動画の基礎知識
	2	リファレンス研究①	たくさんのジャンルの映像を見て、言語化しよう
	3	企画①	ワンシーンワンショットの企画を考える
	4	撮影概論①	撮影アプリの使い方と説明（課題：撮影）
	5	編集概論①	モンタージュ理論入門①映像編集とは何だろう
	6	課題提出①	講評
	7	資料読解	撮影資料を読み解く
	8	機材研究①	カメラ・マイク・照明等の機材の使い方を知る
	9	機材研究②	何をどう使うのか・どんな設定があるのか
	10	機材研究③	資料化して発表する
	11	リファレンス研究②	スペック広告の企画を立てる
	12	企画②	企画書／企画・演出コンテまたは脚本を書く（課題：撮影）
	13	編集技術①	Premire Proの基本操作①
	14	編集技術②	Premire Proの基本操作②
	15	課題提出②	講評
後期	1	撮影技術①	実践／イマジナリーライン
	2	撮影技術②	実践／インタビュー映像（照明・録音方法）
	3	撮影技術③	実践／配信映像（録音・ケーブル捌き）
	4	編集概論②	モンタージュ理論入門②インパクトある映像を制作するには？
	5	リファレンス研究③	映像をたくさん見て言語化する
	6	企画③	オリエン：後期課題提出へ向けて企画を考える
	7	企画④	企画書作成
	8	企画⑤	企画書／企画・演出コンテまたは脚本／構成案／スケジュール
	9	撮影①	スタッフに分かれて撮影（スタジオ・校内・屋外）
	10	撮影②	同上
	11	編集技術③	Premire Proでカラー調整とAuditionで音声調整
	12	編集①	スタッフで編集
	13	編集②	スタッフで編集
	14	課題提出③	講評
	15	映画鑑賞①	ドキュメンタリー映画の鑑賞
評価方法			
テキスト			

2026	区分	選択必修	対象	Ⅰ部2年制1年

科目名	コマーシャル基礎ゼミ		
開講期	後期	単位数	3
講師名	赤坂 トモヒロ		
授業概要	この授業では、基本的なスタジオワークおよび商品撮影のライティングを学びます。いわゆる「ブツ撮り」においては、切り抜き撮影が最も重要と考えています。ライティングの基本的な考え方、撮影セットの構築方法など、スキルアップのために必要なエッセンスが詰まっているのが切り抜き撮影です。この授業では、切り抜き撮影を前半に集中的に行い、後半の課題撮影に繋げていきます。講師のよるデモ撮影を何度かはさむことで分かりやすい授業を目指しますが、半期に多くの要素を詰め込んだ授業になるので、集中力と事前のしっかりした準備が必要になります。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	オリエン	授業概要の説明と学生の習熟度をみるために簡単な撮影を実施
	2	デモ撮影①	缶コーヒーの切り抜き撮影を講師が実演しながら撮影の流れ等を説明
	3	切り抜き基礎①	缶コーヒーの切り抜き撮影を通じてメインライト、サブライト、レフ板の意味や使い方を学ぶ
	4	切り抜き基礎①	上記の続き
	5	切り抜き基礎②	チューブの切り抜き撮影を通じて缶との違いと、エッジの黒シメ処理を学ぶ
	6	切り抜き基礎②	上記の続き
	7	切り抜き基礎③	ペットボトルや酒瓶など、透過物を切り抜き撮影方法を学ぶ
	8	切り抜き基礎③	上記の続き
	9	ライティング応用①	スマホやPCの撮影を通して発光部分のある商品の撮影方法を学ぶ
	10	ライティング応用②	液体の撮影を通して入射角・反射角の理解を深める
	11	デモ撮影②	黒バックでの撮影を通してイメージ切り抜き、背景に応じた切り抜き方法を学ぶ
	12	切り抜き応用	黒バックで黒い商品のイメージ切り抜き撮影をする
	13	切り抜き応用	上記の続き
	14	課題撮影	講師の提示する課題作品を模写する
	15	課題撮影	上記の続き

評価方法	出席状況や授業の取り組み姿勢
テキスト	無し

2026	区分	選択必修	対象	Ⅰ部2年制1年

科目名	ポートレート基礎ゼミ		
開講期	後期	単位数	
講師名	河野　鉄平		
授業概要	基礎的な人物スタジオワークを学ぶポートレート演習の授業を補完する役割となるゼミです。ポートレート撮影の基礎をより多角的な視点で深めていきます。モデル撮影実習は2度あります。人物撮影のためのテクニックに加え、人物と対峙することの大切さを共に学んでいきます。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1		スタジオワークの確認/ショートとブロードライティングの実践
	2		色を合わせるワークフロー
	3		環境光下の撮影と日中シンクロ１
	4		環境光下の撮影と日中シンクロ２
	5		課題に合わせた多灯ライティングの実践
	6		モデル撮影のための準備
	7		モデル撮影
	8		写真講評
	9		カラーフィルターを使ったライティングの基礎
	10		反射、映り込み、プロジェクターを使ったライティング
	11		定常光ライトを組み合わせるライティング１
	12		定常光ライトを組み合わせるライティング２
	13		モデル撮影のための準備
	14		モデル撮影
	15		写真講評　まとめ

評価方法	能動的、自主的に授業に参加しているかクリエイティブな発想で作品づくりを行えているか
テキスト	

2026	区分	選択必修	対象	Ⅰ部2年制1年

科目名	フォトクリエイティブ基礎ゼミ		
開講期	後期	単位数	3
講師名	馬場　智行		
授業概要	この授業では後期を通して二つ作品を制作し、それらをポートフォリオにまとめてもらいます。制作を通して、撮ること、見せること、自分の作品を言語化すること、毎週の講評とヂスカッションを通してこれを繰り返し、作品制作のノウハウを実践的に身に付けていきます。また仲間のの作品と写真集を見て、ディスカッションすることで、写真による表現について考察し、その理解を深めていきます。1年次における作品制作の基礎固めと、表現力と想像力を鍛えることがこの授業の目的です。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	企画発表	各自取り組むテーマの検討
	2	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	3	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	4	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	5	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	6	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	7	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	8	課題提出	これまでのプリントをポートフォリオにまとめたものを提出
	9	企画発表	各自取り組むテーマの発表
	10	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	11	作品検討	3～5枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	12	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	13	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	14	作品検討	8～10枚のテーマに沿ったプリントを発表・検討
	15	課題提出	これまでのプリントをポートフォリオにまとめたものを提出

評価方法	課題提出、提出頻度、課題内容、出席回数
テキスト	必要に応じて随時指定

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制2年

科目名	画像処理Ⅱ		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	羽立　孝		
授業概要	Aiも盛んに写真の編集に使われていますが、目で見て近くしながら手作業で行うことと との差は明確に存在しています。 その“違い”を認識すること、また判断できるようになること、またそれらを技術として身につけること、を焦点としていきます 予習及び復習を十分に行い、日々のレタッチに活かしていくようにしましょう 【到達目標】 ・Photoshopを使えると言えるようになること		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	概要	ペンタブレット・Bridge
	2	RAW現像	ヒストグラム、色情報を見る
	3	テザー撮影	撮影環境を整える(SONY,CANON,NIKON,Fuji,Pana)
	4	Photoshop	レイヤーの仕組み(修復ブラシ・コピースタンプ)
	5	選択範囲	選択範囲およびマスクの概要
	6	パス①	パスの概要
	7	パス②	パスの選択、使い方
	8	パス③	パスを組み合わせて使う
	9	選択範囲	色
	10	選択範囲	輝度
	11	マスク	復習
	12	トーンカーブ①	ブラシの概要及び使い方
	13	トーンカーブ②	ブラシ&情報
	14	小テスト	前期内容について
	15	復習	
後期	1	導入	前期の復習および補足
	2	スマートオブジェクト	概要
	3	スマートオブジェクト	変形
	4	スマートオブジェクト	フィルター
	5	スマートオブジェクト	ゆがみ
	6	スマートオブジェクト	応用
	7	スマートオブジェクト	背景延ばし
	8	描画モード	スクリーン
	9	描画モード	乗算
	10	描画モード	乗算
	11	描画モード	乗算
	12	描画モード	オーバーレイ
	13	描画モード	オーバーレイ＆カラー
	14	小テスト	後期内容について
	15	復習	

評価方法	出席および授業参加率、授業ごとの習熟度、テスト
テキスト	事前配布

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制2年

科目名	ゼミナール（コマーシャルフォトゼミ）		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	イ　キョンソン		
授業概要	画面構成とライティングの技術を習得し、商品撮影の特性を学びます。 前期: ライティングの基本や構図の工夫、被写体の魅力を引き出す撮影方法を実践的に学ぶ。 後期: 前期で培ったスキルを応用し、オリジナリティのある作品を制作。コンセプト設計から撮影・編集まで一貫した制作プロセスを経験し、より実践的なスキルを磨く。 【到達目標】 ・照明機材とライティングの基礎および応用技術の習得 ・商品写真のクオリティを見極める判断力の養成 ・創造力と発想力の強化、イメージを具体化する力の向上		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	テスト	オリエンテーション、基礎知識テスト
	2	写真管理	LrC写真管理、テザー撮影
	3	機材	スタジオ機材の名称と使用方法
	4	複写撮影	平面の絵画や図表などをそのまま写真に撮影・説明
	5	複写撮影	平面の絵画や図表などをそのまま写真に撮る・実践
	6	撮影	2灯ライト撮影・説明
	7	撮影	2灯ライト撮影・実践
	8	撮影	透過ボトル切り抜き撮影・説明
	9	撮影	透過ボトル切り抜き撮影・実践
	10	撮影	俯瞰撮影セッティング、ライティング
	11	撮影	俯瞰撮影・実践
	12	課題提出	質問応答、課題撮影準備、課題提出
	13	撮影	テーブル撮影＋ライティング、構図（小道具の利用）-説明
	14	撮影	テーブル撮影＋ライティング、構図（小道具の利用）-実践
	15	講評	作品講評
後期	1	企画	後期目標、テーマ決め
	2	企画	テスト撮影、個人面談
	3	企画	テスト撮影、個人面談
	4	撮影	作品制作
	5	撮影	作品制作
	6	撮影	作品制作
	7	撮影	作品制作
	8	課題提出	作品講評
	9	企画	作品方向性検討
	10	撮影	作品制作
	11	撮影	ハウススタジオ撮影
	12	撮影	ハウススタジオ撮影
	13	課題提出	作品講評
	14	卒展準備	卒展面談
	15	予備日	作品講評、卒展面談

評価方法	15回出席点数51点/ 課題提出・授業態度・撮影準備を含め総合評価
テキスト	PDFファイルおよび授業内容ページのリンク共有します。

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制2年

科目名	ゼミナール（フォトレタッチゼミ）		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	羽立 孝		
授業概要	「写真」を「レタッチ」するということは、写真から逸脱せず、イメージをより具体的に昇華していくことであり、そのためには写真（カメラ、ライティング、アングル、絞りについての基礎知識）を十分に理解していることが前提となります。その写真がどのような意図をもって撮影されたかを汲み取り、最大限に活かし、必要に応じて修正するための技術を習得および発展させることが重要となってきます。 写真をレタッチすることを、仰々しい合成だけと捉えず、幅広く考えながら、各々の写真におけるレタッチの必要十分性を考え、「レタッチ」を通して「写真」について考えていきたいと思います。 また、課題・作品を制作するにあたっては、個々の意図やねらいを明確にし、他者との意見交換を行いながら改善点を検討し、作品制作に取り組んでください。 作品のテーマは自由です。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業概要説明	授業説明、年間テーマ作成
	2	基礎演習	画像処理に必要なワークフローおよび結果を得るために素材撮影をするために必要な基礎演習
	3		
	4		
	5	スタジオ撮影	撮影
	6	レタッチ	合成
	7		
	8	年間テーマ	面談等
	9	スタジオ撮影	合成素材撮影
	10	レタッチ	合成
	11		
	12	スタジオ撮影	合成素材撮影
	13	レタッチ	合成
	14		
	15	年間テーマ講評	面談等
後期	1	プランニング	年間テーマ確認、進捗
	2	課題制作	各人の作品制作
	3		
	4	スタジオ撮影	撮影
	5	課題制作	各人の作品制作
	6		
	7	スタジオ撮影	撮影
	8	課題制作	各人の作品制作
	9		
	10	スタジオ撮影	撮影
	11	作品制作	進捗確認
	12		
	13		
	14		
	15		

評価方法	作品制作、出席回数、プリント
テキスト	授業内容等は進行により変更あり。基本はPC作業及びスタジオ撮影

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制2年

科目名	ゼミナール（ファッションポートレートゼミ）		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	倭田 宏樹		
授業概要	ファッションフォトグラファーに求められるものは技術や知識も大切ですが、独創性と協調性です。 既成概念に捉われず、流行を組み上げ、独自のセンスを築くことはこれからのベースであり、道しるべでもあります。 『学ぶ』からより『実践』『作品制作』にベースを移行し、授業では主にテーマに沿って独自の感性を形にしていきます。他の生徒たちと同じモデルで同じテーマを元に撮影していきます。撮影後はみんなで写真を展示し、みんなで評価をつけます。己の形に導き、創り上げていくことが目標です。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	説明	授業内容説明
	2	授業	Capture One 講習
	3	照明授業	ライティング授業　1灯ライトのバリエーション
	4	照明授業	ライティング授業　色表現
	5	検討	次回撮影プラン制作
	6	撮影	課題テーマ撮影『B/W』1
	7	撮影	課題テーマ撮影『B/W』2
	8	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作
	9	撮影	課題テーマ撮影『street』1
	10	撮影	課題テーマ撮影『street』2
	11	照明授業	ライティング授業　拡散光
	12	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作
	13	撮影	課題テーマ撮影『ennui』1
	14	撮影	課題テーマ撮影『ennui』2
	15	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作
後期	1	撮影	テーマ撮影『組写真』1
	2	撮影	テーマ撮影『組写真』2
	3	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作
	4	撮影	テーマ撮影『elegant』1
	5	撮影	テーマ撮影『elegant』2
	6	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作
	7	撮影	テーマ撮影『music』1
	8	撮影	テーマ撮影『music』2
	9	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作
	10	撮影	テーマ撮影『minimal』1
	11	撮影	テーマ撮影『minimal』2
	12	検討	次回撮影プラン制作、卒業審査の経過提出
	13	撮影	テーマ撮影『own style』1
	14	撮影	テーマ撮影『own style』2
	15	総括	前回の撮影合評、一年の総括

評価方法	出席、授業態度、表現力、テーマ提出物
テキスト	

Ⅰ部　2年制

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制2年

科目名	ゼミナール（ブライダルポートレートゼミ）			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	安澤 剛直			
授業概要	将来ブライダルや写真館だけでなく、幅広いジャンルでフォトグラファーとして活躍できるよう、基礎の復習から撮影実習を中心に進めていきます。 ポートレートの基本のライティング、応用ライティング、ポージング、フレーミングなど、被写体の魅力を引き出す技術や知識を学びます。撮影の企画から提案し、企画に合わせたライティングを生み出し、撮影をし切れるようになることが一年間の到達目標です。また、撮影技術だけでなく、社会に出て活躍するためのプロとしての心構えなども身につけます。			

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	実習	ガイダンス／ライティング基礎(光のトーン／捉え方)
	2	実習	4つのメインライト／ライティングの組み立て方
	3	撮影実習	ポートレート撮影(学生同士)
	4	企画作成	撮影指示書／撮影企画を考える
	5	テスト撮影	婚礼ドレス　ポージング(テスト撮影)
	6	モデル撮影実習	婚礼ドレス　ポージング(モデル撮影)
	7	外部講師	Capture One 講習
	8	外部講師	コードスリーレンタル衣装　見学
	9	ロケハン	テスト撮影／ロケハン
	10	企画作成	撮影指示書／撮影企画を考える
	11	ロケ準備	ロケーション撮影準備
	12	モデル撮影実習	ロケーション撮影①
	13	モデル撮影実習	ロケーション撮影②
	14	モデル撮影実習	ロケーション撮影③
	15	総括	前期振り返り／作品提出
後期	1	企画作成	ガイダンス(ディレクション撮影)／企画書作成
	2	プレゼン	撮影ディレクション(プレゼン)
	3	撮影実習	撮影ディレクション(テスト撮影)
	4	モデル撮影実習	撮影ディレクション(モデル撮影)
	5	プレゼン	撮影ディレクション(プレゼン)
	6	撮影実習	撮影ディレクション(テスト撮影)
	7	モデル撮影実習	撮影ディレクション(モデル撮影 和装)
	8	モデル撮影実習	撮影ディレクション(モデル撮影 和装)
	9	発表	卒展写真プレゼン
	10	プレゼン／テスト	撮影ディレクション(プレゼン／テスト撮影)
	11	プレゼン／テスト	撮影ディレクション(プレゼン／テスト撮影)
	12	モデル撮影実習	撮影ディレクション(モデル撮影)
	13	卒展準備	卒展準備
	14	卒展準備	卒展準備
	15	総括	後期振り返り／作品提出

評価方法	作品制作、出席回数
テキスト	

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制2年

科目名	ゼミナール（ライブステージフォトゼミ）			
開講期	前後期		単位数	6
講師名	中野 敬久			
授業概要	日本のカルチャーシーンは音楽を軸に、多種多様なステージで表現の幅が増えています。それはロックやポップ、ヒップホップやアニソンといったジャンルだけに留まらず、演劇、2.5次元やアイドルなど、様々な舞台上で展開されます。配信などを通して写真を必要とされるメディアも、日本だけに留まらず垣根を超えてグローバルになりました。このゼミでは、幅広いステージメディアの考察と、実践で必要なスキルを検証していきながら、個々の表現を尊重した作品作りをしていきます。			

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業説明	オリエンテーション
	2	講習、座学	媒体把握　雑誌、ウェブ媒体、CD、配信ジャケ等
	3	講習、座学	課題決め、ポートフォリオ作成相談,SNS考察
	4	撮影	スタジオ　アーティスト写真
	5	講習、座学	音楽写真分析、研究、技術論
	6	撮影	スタジオ　定常光ライティング
	7	講習、座学	課題撮影(テーマ)講評、ディスカッション
	8	撮影	ロケーション撮影
	9	見学	写真展見学
	10	講習、座学	音楽写真分析、研究、準備
	11	撮影	ライブ撮影
	12	講習	スタジオライティング考察
	13	撮影	スタジオリクエストライティング
	14	講評	講評、ディスカッション
	15	講習	ポートフォリオ進捗相談
後期	1	講習、座学	課題撮影(テーマ)講評、ディスカッション
	2	講義	ゲスト写真家による講義
	3	撮影	クリップオンストロボを使った撮影
	4	撮影	ライブ撮影
	5	撮影	スタジオ、人数多めの集合撮影
	6	撮影	イメージ寄りの物撮り
	7	講評	講評、ディスカッション
	8	講習、座学	映像から学ぶ写真、ディスカッション
	9	撮影	スタジオ　特殊ライティング
	10	講習	ハウススタジオ撮影に向けてのプランニング
	11	撮影	ハウススタジオ
	12	撮影	ハウススタジオ
	13	講評	講評、ディスカッション
	14	講評	ポートフォリオ、卒展に向けて
	15	総括	一年の総括

評価方法	出席、授業態度、表現力、読解力、ポートフォリオ
テキスト	

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制2年

科目名	ゼミナール（ドキュメンタリーフォトゼミ）		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	齊藤 小弥太		
授業概要	作品を制作するためには、他者（人間や自然など、私たちを取り巻く世界全般）に対する理解と、作者自身に対する理解の双方が必要になります。 作品制作を通して他者と向き合い、また自分自身と向き合うことで、作品は生まれます。作品制作は決して簡単なことではありませんが、諦めずに向き合い続けることで、作者自身の眼差しが少しずつ形づくられていきます。頑張りましょう。 授業では年間テーマを設定し、それに基づいて撮影に取り組んでいただきます。また、作品の講評に加え、作品制作のための講座も行います。 最終的には、同一テーマで制作された30枚の組み写真を提出していただきます。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業説明	授業内容、授業予定、テーマ設定などの確認
	2	合評	組み写真についての基礎講座、テーマに沿った作品の提出。
	3	合評	テーマに沿った作品の提出。
	4	合評	テーマに沿った作品の提出。
	5	合評	ステイトメントについて基本講座。テーマに沿った作品の提出。
	6	合評	テーマに沿った作品の提出。
	7	合評	テーマに沿った作品の提出。
	8	合評	プリントについての基本講座。テーマに沿った作品の提出。
	9	合評	テーマに沿った作品の提出。
	10	合評	テーマに沿った作品の提出。
	11	合評	テーマに沿った作品の提出。
	12	合評	テーマに沿った作品の提出。
	13	合評	テーマに沿った作品の提出。
	14	合評	テーマに沿った作品の提出。
	15	合評	同一のテーマで制作された作品15枚を提出。採点を行う。
後期	1	合評	テーマに沿った作品の提出。
	2	合評	テーマに沿った作品の提出。
	3	合評	学生の作品に合わせた作品集、作品の紹介。
	4	合評	テーマに沿った作品の提出。
	5	合評	テーマに沿った作品の提出。
	6	合評	学生の作品に合わせた作品集、作品の紹介。
	7	合評	テーマに沿った作品の提出。
	8	合評	テーマに沿った作品の提出。
	9	合評	学生の作品に合わせた作品集、作品の紹介。
	10	合評	テーマに沿った作品の提出。
	11	合評	テーマに沿った作品の提出。
	12	合評	卒業作品展に向けての準備期間
	13	合評	卒業作品展に向けての準備期間
	14	合評	卒業作品展に向けての準備期間
	15	作品審査	同一のテーマで制作された作品30枚を提出

評価方法	授業での提出作品の採点をもとに評価、出席状況も考慮します。
テキスト	

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制2年

科目名	ゼミナール（フォトクリエイティブゼミ）		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	フジモリメグミ		
授業概要	ゼミでの１年間を通して「学生時代の代表作」を残すことを目指し、授業を進行していきます。 私はKoma galleryという自主ギャラリーの運営をしながら自分自身の作品を発表しています。定期的に展示会を行うこと、自身の作品を本の形にすること、それを展示会やbook fairなどで発表・販売すること、毎日日記を書くこと、そうすることで世の中と向き合っているつもりです。社会と向き合う方法はさまざまありますが、私はそのように生きています。この授業では学生時代の代表作を残すことを目標にしていますが、そのためには毎日手を動かし続けることが大切になっていくと考えています。継続は力なり、それがこのゼミのモットーになります。私は継続的に取り組む姿勢を大切にしています。そのため、作ることが好きなひとに向いているゼミになります。 授業内の課題から個人テーマの制作に深めていけるよう、手を動かし続けてください。毎回進捗状況を報告してもらいます。授業内容にあわせて個別に準備をするものや宿題もたくさんあります。忘れ物が多い場合は授業進行に影響がでますので注意してください。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業説明　自己紹介
	2	発表・講評	春休み課題の発表
	3	目標・課題設定	授業内課題(A)・年間テーマの設定(☆)
	4	実習	授業内制作①
	5	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(A)
	6	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(A)
	7	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(☆)
	8	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(☆)
	9	実習	授業内制作②
	10	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(A)
	11	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(☆)
	12	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(A)
	13	目標設定	夏休みの目標設定
	14	発表	夏休みの目標設定
	15	ゼミ内審査	期末審査に向けてゼミ内での審査を行います
後期	1	ガイダンス	ポートフォリオコンペ・卒展や審査にむけて
	2	目標・課題設定	授業内課題(B)・年間テーマの進捗(☆)
	3	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(B)
	4	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(B)
	5	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(☆)
	6	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(☆)
	7	実習	授業内制作③
	8	目標・課題設定	授業内課題(C)・年間テーマの進捗(☆)
	9	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(C)
	10	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(C)
	11	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(☆)
	12	発表・講評	制作している作品の経過発表・講評(☆)
	13	実習	授業内制作④
	14	まとめ	まとめ
	15	ゼミ内審査	卒業審査に向けてゼミ内での審査を行います

評価方法	制作に対する意欲・出席・授業態度
テキスト	

Ⅰ部　2年制

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制2年

科目名	ゼミナール（ネイチャーフォトゼミ）		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	飯塚 明夫		
授業概要	ネイチャーフォトゼミでは「自然と人間」をキーワードに写真創作を行います。撮影対象は自然が生み出してきた風景や生き物たち（動物・昆虫・植物など）ですが、自然と深く関わりながら生きる人々や、都市の中に息づく動植物、人間の営みによって作り変えられてきた風景（自然＋人工物）なども含みます。 私の役割は、ゼミ生一人ひとりが持っている感性や個性を見つけ出し、それを大きく育てながら、写真作品に結実させてゆくことです。そのために、テーマの設定、撮影方法や写真の選び方・見せ方、プリント仕上げの技術などをアドバイスします。先入観で自然を見るのではなく、自然の中に多様性を発見する意識を持つことが大切です。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	前期授業内容説明・自己紹介・撮影対象とテーマを考える。
	2	撮影対象の決定	1年生の時撮影した写真持参、撮影対象を決める。
	3	作品合評①	新作の講評ー撮影写真2Lプリント20～30枚程
	4	作品合評②	新作の講評ー2Lプリント20枚～
	5	作品合評③	新作の講評-2Lプリント20枚～
	6	作品合評④	テーマに合ったプリント仕上げを考える（1）、A4プリント10枚
	7	好きな写真集	好きな写真集1冊を選びその理由などを15分くらいで話す。
	8	作品合評⑤	新作の講評-2Lプリント20枚～
	9	作品合評⑥	新作の講評-2Lプリント20枚～
	10	中間発表	A4プリント10枚、作品タイトル、撮影趣旨(約200字)
	11	作品合評⑦	新作の講評-2Lプリント20枚～
	12	作品合評⑧	新作の講評-2Lプリント20枚～
	13	作品合評⑨	新作の講評-2Lプリント20枚～
	14	プリントレベルアップ	テーマに合ったプリント仕上げを考える（2）、同一カットを2種類の写真用紙で（計10枚）
	15	ゼミ内審査	A-4サイズ、10枚、作品タイトル、撮影趣旨（約300字）
後期	1	作品合評①	後期授業内容、卒業写真展について、後期作品の取り組みについて
	2	作品合評②	新作の講評-2Lプリント20枚～
	3	作品合評③	新作の講評-2Lプリント20枚～
	4	作品合評④	新作の講評-2Lプリント20枚～
	5	作品合評⑤	新作の講評-2Lプリント20枚～
	6	作品合評⑥	新作の講評-2Lプリント20枚～
	7	テーマとプリント	テーマに合ったプリント仕上げ（写真用紙の種類、明るさ、色彩、コントラストなど）
	8	後期中間発表	後期作品10枚（A-4）、タイトル、撮影趣旨（約300字）
	9	作品合評⑦	新作の講評-2Lプリント20枚～
	10	作品合評⑧	新作の講評-2Lプリント20枚～
	11	卒業写真展①	卒業写真展の展示構成を考える
	12	卒展の構成②	卒業写真展の展示構成を考える
	13	卒展の構成③	卒業写真展の展示構成を考える
	14	卒展の構成④ゼミ内審査①	ゼミ内審査：20枚（A-4）、タイトル、ステートメント（約300字）/卒展構成決定
	15	卒展の構成⑤ゼミ内審査②	ゼミ内審査：20枚（A-4）、タイトル、ステートメント（約300字）/卒展構成決定

評価方法	写真作品の質と内容を重視するが、授業態度、出席数も考慮する。
テキスト	ランドスケープ写真集など

Ⅰ部　2年制

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制2年

科目名	ゼミナール（スポーツフォトゼミ）		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	兼子 慎一郎		
授業概要	スポーツの撮影では、速い動きの被写体を捉え、ピントを合わせる技術の習得が大前提で、その上でそれぞれの感性を表現することが大事です。そのためには実践しかありません。ゼミの実習では様々な競技の撮影を体験すること、現場の雰囲気を感じて刺激を得ること等を目的とします。また、実習とは別に、学生には各自テーマ（1年間撮影する競技）を決めてもらい、その撮影を通して技術の向上を図ります。講義では作品講評、撮影についての技術的なアドバイスをします。作例や写真集などを見ながら、撮影の際のイメージの引き出しを増やしていければと考えています。補足知識になりますが、「作品」ではなく「仕事」としての撮り方も指導します。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	講義	オリエンテーション、スポーツ写真概論
	2	実践	実践トレーニング
	3	講義	トレーニングの作品講評
	4	実践①	撮影　*競技未定
	5	実践①	撮影　*競技未定
	6	実践①	アドバイス、質疑応答
	7	講義	実践①の作品講評など
	8	実践②	撮影　*競技未定
	9	実践②	撮影　*競技未定
	10	実践②	アドバイス、質疑応答
	11	講義	実践②の作品講評など
	12	実践③	撮影　*競技未定
	13	実践③	撮影　*競技未定
	14	実践③	撮影　*競技未定
	15	講義	実践③の作品講評など
後期	1	講義	休み中に撮影した作品講評
	2	実践④	撮影　*競技未定
	3	実践④	撮影　*競技未定
	4	実践④	アドバイス、質疑応答
	5	講義	実践④の作品講評など
	6	実践⑤	撮影　*競技未定
	7	実践⑤	撮影　*競技未定
	8	実践⑤	アドバイス、質疑応答
	9	講義	実践⑤の作品講評など
	10	実践⑥	撮影　*競技未定
	11	実践⑥	撮影　*競技未定
	12	実践⑥	アドバイス、質疑応答
	13	講義	実践⑥の作品講評など
	14	講義	卒業制作
	15	講義	まとめ

評価方法	出席、作品、写真に対する姿勢
テキスト	

Ⅰ部　2年制

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制2年

科目名	ゼミナール（フォトアートゼミ）			
開講期	前後期		単位数	12
講師名	濱田 祐史			
授業概要	展覧会、出版などで発表することを目的とし、写真を用いたコミュニケーションの可能性をありとあらゆる方法で対話し探る。写真、美術の技術と歴史を可能な限り学び、忘れて“自分の作品”を制作し、楽しむことを目的とする。定期的にそれぞれの個性に基づき、作品の制作状況を見て必要なものごとを対話していく。主にディスカッション形式で知を共有すること。写真、映画、音楽、絵画、漫画、書籍、画像など、自身の趣味の中から自由に選び、触れ、心を動かされたものをひとつは毎月発表する。 不定期で特殊技術研究、印刷研究をする可能性がある。			

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	写真は魔法　　自己紹介、個人面談
	2	インタビュー	2人か3人で聞き手、答え手でインタビューし文字に起こす
	3	美術鑑賞	美術鑑賞　（校外演習）
	4	写真集研究	印刷物について　写真集について（ゲスト　書店員）（校外演習）
	5	暗室研究	感光物質について　カラープリント実験
	6	デジタル	紙の上の世界　インクジェットプリントについての実験
	7	展示	グループ展の企画立案、準備
	8	展示	ゼミグループ展
	9	写真集研究	グラフィックデザイナーの講義（ゲスト　グラフィックデザイナー）
	10	講義	作品途中経過（ダミーブック制作、ポートフォリオ制作）
	11	合宿	撮影、編集、プリント　（校外演習）
	12	合宿	撮影、編集、プリント　（校外演習）
	13	合宿	撮影、編集、プリント（ゲスト予定）　（校外演習）
	14	合宿	撮影、編集、プリント、ゼミグループ展　（校外演習）
	15	講義	後期に向けて　目標とまとめ
後期	1	講義	見るということについて
	2	制作	ダミーブック制作、ポートフォリオ制作
	3	制作	ダミーブック制作、ポートフォリオ制作
	4	講義	ファッションデザイナーの講義（ゲスト　ファッションデザイナー）
	5	美術鑑賞	美術鑑賞
	6	印刷物研究	印刷物について　写真集について（ゲスト書店員）
	7	制作	制作物についてディスカッション
	8	美術鑑賞	美術館鑑賞　（ゲスト　美術館キュレーター）（校外演習）
	9	制作	制作物についてディスカッション
	10	美術鑑賞	美術鑑賞　（校外演習）
	11	制作	制作物についてディスカッション
	12	制作	卒業制作
	13	制作	卒業制作
	14	制作	卒業制作
	15	制作	卒業制作

評価方法	作品と熱意
テキスト	「写真講義」ルイジ・ギッリ　「風姿花伝」（花伝書）世阿弥

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制2年

科目名	フォローアップ講座		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	教務課・キャリアセンター・山ノ手写真 安部先生		
授業概要	卒業年度に進級おめでとうございます。この授業では、(1)卒業作品展に向けた準備(2)就職やデビューに向けた準備、(3)キャリアに対する考え方や活動の進め方を中心に学んでいきます。卒業作品展に向けた準備ではいろいろな展示方法や、作家の紹介などを通じて、自分の作品に対するイメージを膨らませていきます。実際の制作に活かした、よい卒業作品展を目指しましょう。 また、(2)や(3)では実際に仕事の現場はどのような場所なのかを知ったり、キャリアの考え方を広げたり…。自分の生き方を考え直すきっかけにもするような発見や出会いをしてほしいと思っています。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	キャリアのプランニングとは(仕事の種類を知ろう)フォローアップシートの提出確認
	2	キャリア研究	キャリア①
	3	キャリア研究	キャリア②
	4	キャリア研究	キャリア③
	5	卒業研究	卒業作品展とは、作品を展示する、ということは
	6	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	7	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	8	企業研究	企業説明会①
	9	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	10	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	11	企業研究	企業説明会②
	12	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	13	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	14	卒業研究	卒展に向けたワークショップ
	15	キャリア研究	前期のまとめ
後期	1	個別相談	進路調査・個別相談会
	2	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	3	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	4	卒業研究	卒展に向けたケーススタディ
	5	企業研究	企業説明会③
	6	卒業研究	卒展制作
	7	卒業研究	卒展制作
	8	自己PR力UP	ポートフォリオレビュー
	9	卒業研究	卒展制作
	10	卒業研究	卒展に向けた準備①
	11	卒業研究	卒展に向けた準備②
	12	卒業研究	卒展に向けた準備③
	13	卒業研究	卒展に向けた準備④
	14	まとめ	授業調整日
	15	まとめ	一年のまとめ

評価方法	出席と授業態度、意欲、提出物で総合的に評価
テキスト	スクーの動画資料など。授業内で適宜指示します。

2026	区分	選択必修	対象	Ⅰ部2年制2年ドキュメンタリー・クリエイティブ・ネイチャー・スポーツ・PAゼミ

科目名	写真創作演習		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	馬場 智行		
授業概要	手法の用い方が自分自身の撮影行為とどのように関係するか、また鑑賞者にとってどのような意味として表されるのかを体験し、表現の引き出しを増やすこと、および選択の仕方の基準を得ることをこの授業の目的とします。 前期には、五つのテーマの中で手法の研究を行っていきます。各テーマに対し、3～4の手法を設定し、各々がその中から選択した手法に基づき作品を制作します。持ち寄った作品に対してディスカッションを行い、手法の効果を考察し共有します。 後期には、前半・後半に分けて、一つのテーマに対して異なる手法で二つの作品を制作し、選択した手法についてより深く研究していきます。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	授業内容の説明　第一回テーマと手法の発表　一年時に制作した課題10枚程度各自持参
	2	1-1	第1回テーマ：存在　手法：距離によるコントロール　主観　客観　中間　（グループa）
	3	1-2	第1回テーマ：存在　手法：距離によるコントロール　主観　客観　中間　（グループb）
	4	1-3	第1回テーマ：存在　手法：距離によるコントロール　主観　客観　中間　（グループc）
	5	2-1	第2回テーマ：空間　手法：スナップ　ノーファインダー　コラージュ（グループa）
	6	2-2	第2回テーマ：空間　手法：スナップ　ノーファインダー　コラージュ（グループb）
	7	2-3	第2回テーマ：空間　手法：スナップ　ノーファインダー　コラージュ（グループc）
	8	3-1	第3回テーマ：感情　手法：アウトオブフォーカス　多重露光　クローズアップ　（グループa）
	9	3-2	第3回テーマ：感情　手法：アウトオブフォーカス　多重露光　クローズアップ　（グループb）
	10	3-3	第3回テーマ：感情　手法：アウトオブフォーカス　多重露光　クローズアップ　（グループc）
	11	4-1	第4回テーマ：他者　手法：タイポロジー　ファウンドフォト　ステージドフォト　定点観測（グループa）
	12	4-2	第4回テーマ：他者　手法：タイポロジー　ファウンドフォト　ステージドフォト　定点観測（グループb）
	13	4-3	第4回テーマ：他者　手法：タイポロジー　ファウンドフォト　ステージドフォト　定点観測（グループc）
	14	5-1	夏休み課題の提出・発表　課題テーマ　都市 手法 自由
	15	5-2	夏休み課題の提出・発表　課題テーマ　都市 手法 自由　後期の説明
後期	1	1-1	各自のテーマとテーマに対して選択した手法の発表　（一作目）
	2	1-2	作品・手法の検証
	3	1-3	作品・手法の検証
	4	1-4	作品・手法の検証
	5	1-5	作品・手法の検証
	6	1-6	作品・手法の検証
	7	提出	まとめた物を提出・発表
	8	2-1	一作目のテーマに対して異なる手法での制作開始
	9	2-2	作品・手法の検証
	10	2-2	作品・手法の検証
	11	2-3	作品・手法の検証
	12	2-4	作品・手法の検証
	13	2-6	作品・手法の検証
	14	2-7	作品・手法の検証
	15	提出	まとめた物を提出・発表

評価方法	課題提出、提出頻度、課題内容、出席回数
テキスト	必要に応じて随時指定

2026	区分	選択必修	対象	Ⅰ部2年制2年ドキュメンタリー・クリエイティブ・ネイチャー・スポーツ・PWゼミ

科目名	取材撮影演習		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	山田 諭		
授業概要	企画、撮影、作品作成のプロセスを、参加する学生と講師の皆で共有することで、作品をつくるための自分なりの方法を学びます。 決められた対象について企画を立て、撮影に行き、企画の見直しを行い方針を定め再び撮影する。その反復から出来上がる写真群を作品として構成してもらうことが、具体的な講義内容です。 写真撮影と作品のまとめ方、テーマの発見と設定について、学生の皆さんが個々のやり方を身につけてもらえればと思っています。 【到達目標】 ・写真作品の構成方法の構築。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業説明	
	2	企画書作成	撮影対象、テーマなどの検討
	3	撮影実習	ロケハンを兼ねて
	4	企画書見直し	前回の撮影を踏まえて、企画の見直し。
	5	撮影実習	
	6	撮影実習	
	7	課題提出	構成を考えた、まとまりのあるプリントを提出。A4 10枚以上
	8	課題提出	前回の講評や検討を踏まえ、再提出。
	9	企画書制作	撮影対象、テーマなどの検討
	10	撮影実習	ロケハンを兼ねて
	11	企画書見直し	前回の撮影を踏まえて、企画の見直し。
	12	撮影実習	
	13	撮影実習	
	14	課題提出	構成を考えた、まとまりのあるプリントを提出。A4 10枚以上
	15	課題提出	前回の講評や検討を踏まえ、再提出。
後期	1	企画書制作	撮影対象、テーマなどの検討
	2	撮影実習	ロケハンを兼ねて
	3	企画書見直し	前回の撮影を踏まえて、企画の見直し。
	4	撮影実習	
	5	撮影実習	
	6	課題提出	構成を考えた、まとまりのあるプリントを提出。A4 10枚以上
	7	課題提出	前回の講評や検討を踏まえ、再提出。
	8	企画書作成	撮影対象、テーマなどの検討
	9	撮影実習	ロケハンを兼ねて
	10	企画書見直し	前回の撮影を踏まえて、企画の見直し。
	11	撮影実習	
	12	撮影実習	
	13	課題提出	構成を考えた、まとまりのあるプリントを提出。A4 10枚以上
	14	課題提出	前回の講評や検討を踏まえ、再提出。
	15	まとめ	
評価方法	提出課題の平均点を成績とする。		
テキスト			

Ⅰ部2年制

2026	区分	選択必修	対象	Ⅰ部2年制2年コマーシャル・レタッチ・ファッション・ブライダル・ライブ

科目名	ヴィジュアルディレクション		
開講期	前期	単位数	3
講師名	片山順平		
授業概要	現在メディアの変化、多様化と共にフォトグラファーには映像を求められる機会が増えています。 私自身、写真からのスタートでしたが、映像撮影の機会が増え、現在は写真と映像を両立させながら仕事をしています。 そしてこの流れは今後とも加速していくと思われます。 フォトグラファーを包む環境を知っておくことは、自分の進む方向を決める大切なきっかけになると思います。 この授業では『知る』をテーマに写真と映像の共通点と相違点を学びながら、一つの映像が出来るまで、撮影から編集、機材や撮影現場の様子、広告映像業界などの仕事や流れなどを学びます。 一つの映像作品を作れる知識と技術を身につけること、それを最終的な目標としています。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	お互いを知る	授業内容の説明、講師の作品などを見ながらお互いの自己紹介（プロフィール持参）
	2	写真と映像の違いを知る	写真と映像の共通点と相違点、映像の種類などを学ぶ
	3	映像を知る	映像の手法や基礎として必要なことを学ぶ
	4	カメラを知る	一眼レフでのムービーの操作、注意点、その他ムービーカメラを学ぶ
	5	様々な機材を知る	映像を作るのに必要なカメラやその他機材（照明録音など）を学ぶ
	6	アングルを知る	アングルの効果や注意点を学ぶ
	7	動きを知る	ムービーの三脚を使って色々なカメラの動きを学ぶ。特機などの紹介
	8	企画演出を知る	映像を作る際の企画演出、コンテ制作などを学ぶ
	9	仕事を知る	映像業界の仕事現場や流れなどを学ぶ
	10	撮影を知る	撮影実習、作品のプレゼン
	11	インタビューを知る	インタビュー撮影を学ぶ
	12	編集を知る	Premiereを使い編集を学ぶ
	13	カラコレを知る	PremiereやDaVinci Resolveを使いカラーマネジメントを学ぶ
	14	作品編集	今まで撮影してきた素材を使って編集し作品を作る
	15	講評	作品講評
後期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		

評価方法	
テキスト	

Ⅰ部2年制

2026	区分	選択必修	対象	Ⅰ部2年制2年コマーシャル・レタッチ・ファッション・ブライダル・ライブ

科目名	ヴィジュアルディレクション		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	ジェイ・メータ		
授業概要	広告系の仕事の商流や人、コト、アイデアなどの流れを理解するための講義。フォトグラファーの仕事内容や立ち位置を理解しながら、仕事に関わるさまざまな役割を解説。それぞれの役割の仕事がどのようなものかを学ぶ。課題の作品を作るにあたり「なぜ？」を考えながら、企画やマーケティング、ターゲットなど写真撮影とは直接関係ないように見える内容を学ぶ。その内容を使って広告系コンペの作品作りや動画制作に向けた絵コンテ作りなどをメインの課題とする。講師のジェイ・メータは、広告系の制作商流を幅広く担当しており、それぞれの立場の目線からフォトグラファーの枠にとらわれない考え方を一緒に学ぶ。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	ガイダンス	授業の内容、進め方を紹介
	2	広告批評	既存の広告がなぜ作られたのかを考察
	3	「なぜ」	企画の裏側にある「なぜ」を考える
	4	広告の裏側	なぜ広告を打つのか、誰に向けて打つのか
	5	広告の裏側	マーケティング、ターゲットの考え方
	6	広告の裏側	企画の考え方・資料の作り方
	7	紙面広告	撮影・デザインの作成
	8	紙面広告	マーケティング、ターゲットの絞り込み
	9	紙面広告	企画、コピーの立案
	10	紙面広告	撮影・デザインの作成
	11	紙面広告	紙面広告プレゼン
	12	絵コンテ	動画制作に向けた字コンテ、絵コンテについて
	13	絵コンテ	企画、字コンテ作り
	14	絵コンテ	字コンテ、絵コンテ作り
	15	最終日	授業総評、紙面広告、絵コンテ、作品紹介

評価方法	出席率、課題提出、授業への関与度、発言回数、質問回数など
テキスト	

2026	区分	選択必修	対象	Ⅰ部2年制2年　ファッション・ブライダル・ライブ

科目名	ポートレートライティング		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	河野 鉄平		
授業概要	1年生の時に実施したポートレート演習でのスタジオワークを踏まえ、その重要箇所の振り返りとさらなる実践を通じて、スタジオワークをより身近なものにしていくことを目的とします。授業はポートレートを題材に前期２回、後期２回のモデル撮影を行います。授業の内容を見ながら屋外実習も考えます。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		オリエンテーション　振り返り　背景を意識したライティング
	2		クラムシェルライティングのおさらい
	3		バック飛ばしのおさらい
	4		やわらかい光と硬い光を使ったミックスライティング1
	5		やわらかい光と硬い光を使ったミックスライティング2
	6		肖像写真の実践
	7		モデル撮影のための準備
	8		モデル撮影1
	9		写真講評
	10		カラーフィルターを使ったライティング
	11		影の演出とカラーフィルター
	12		反射、映り込みをアクセントにするライティング
	13		モデル撮影のための準備
	14		モデル撮影2
	15		写真講評
後期	1		カラーチェッカー、カラーメーターの使い方
	2		プロフィール写真を撮る　ファンシー/キュート
	3		プロフィール写真を撮る　シック/モダン
	4		テーマに沿ったライティングの実践1
	5		テーマに沿ったライティングの実践1
	6		テーマに沿ったライティングの実践1
	7		モデル撮影のための準備
	8		モデル撮影3
	9		写真講評
	10		ミックス光と日中シンクロ1
	11		ミックス光と日中シンクロ2
	12		モデル撮影のための準備
	13		モデル撮影4
	14		写真講評
	15		最終講義　まとめ

評価方法	能動的、自主的に授業に参加しているか。クリエイティブな発想で作品づくりを行えているか
テキスト	

2026	区分	選択必修	対象	Ⅰ部2年制2年コマーシャルフォトゼミ・フォトレタッチゼミ

科目名	スティルライフライティング		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	池谷 友秀		
授業概要	スティルライフとは、静止した被写体と向き合い、光・構図・コンセプトを通じて「見る者の感情を動かす一枚」を創造する行為です。本授業では、コマーシャルの現場で即戦力となるライティング技術の習得を核に置きながら、「なぜその光か」という問いを常に持つ表現者を育てます。一灯から多灯、素材感・色温度のコントロール、そしてターゲット層への訴求力を意識したコンセプト立案まで、年間を通じた実技課題と講評を積み重ねます。また、スティルライフライティングと並行して、平面作品の記録・アーカイブ撮影にも取り組み、「作品を正確に後世へ伝える光」の使い方も習得します。「技術」は「表現」を解放するための言語である—その視点で授業に臨んでください。 【到達目標】 ・ライティングの基礎から多灯・MIX光まで、実践的なライティング技術を習得する ・商品・食品・平面作品など対象に応じた光の設計ができるようになる ・コンセプトを立案し、ターゲットに響く写真表現を提案できるようになる ・年間を通じたポートフォリオ制作により、コマーシャルフォトの実践力を養う		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	イントロダクション	スティルライフとは何か／光と影の哲学／コマーシャルにおける役割
	2	ライティング基礎	光のトーン・質・方向／4つのメインライトポジション
	3	ライティングの組み立て方	メイン・フィル・バック・リムの関係性
	4	撮影実習	一灯ライティング実習
	5	商品撮影の基本	ターゲット設定・ブランドコンセプトの読み解き方
	6	基本ライティング パターン実習	ソフト光／ハード光／透過光
	7	多灯ライティング基礎	光の重ね方、フラグ・ディフューザーの活用
	8	Capture One 講習	現場での撮影ワークフローと色管理
	9	平面作品アーカイブ撮影①	均一照明の設計・反射対策・色管理の基礎
	10	平面作品アーカイブ撮影②	実作品を用いた記録撮影実習（ゆがみ・色再現・データ整理）
	11	ライティング表現①	白背景／白い商品（明部コントロール）
	12	MIX光表現	ストロボ＋定常光のMIX，色温度・シャッタースピード・光の混合表現
	13	ライティング表現②	黒背景／黒い商品（暗部と立体感の表現）
	14	テクスチャと素材感	ガラス・金属・液体・布—素材が光を受ける瞬間
	15	前期まとめ・作品講評	撮影実習／作品講評
後期	1	フードフォトグラフィー 基礎	食べ物が持つ生命感と光の関係
	2	撮影実習	食べ物撮影実習
	3	ライティング表現③	食べ物（湯気・水滴・艶・鮮度の演出）
	4	コンセプト企画①	テーマ・ターゲット・世界観の言語化と作成
	5	コンセプト企画②	提案・プレゼンテーション（クライアント視点の講評）
	6	ライティング表現④	コンセプト企画に基づく撮影
	7	平面作品アーカイブ撮影 ③	応用実習（大判作品・質感表現・納品データ管理）
	8	撮影実習	コンセプト企画・修正・ブラッシュアップ
	9	ライティング表現⑤	コンセプト企画・完成形に向けて
	10	図書室リサーチ	参照作品収集・自主制作テーマ決定（最終撮影方向を確定）
	11	自主制作撮影	個人講評①
	12	自主制作撮影	個人講評②
	13	自主制作撮影	個人講評③
	14	自主制作撮影	個人講評④
	15	最終講評 プレゼンテーション	年間作品のポートフォリオ提出

評価方法	出席率／授業への姿勢・主体的な取り組み態度／最終ポートフォリオの総合評価
テキスト	『SLOW LIVING : Nana』（インプレス）　／　各回にて講師より参照作品・資料を配布

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制2年ドキュメンタリー・クリエイティブ・ネイチャー・スポーツ・PAゼミ

科目名	スタジオライティング		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	出水 惠利子		
授業概要	この授業は、クラス全員がスタジオ機材の使い方、使用目的に応じたセッティング、ライティングを習得するものとする。最低限の、プロとしての仕事スキルを習得することを目的にしています。露出を測り、レンズ効果を意識し、被写他のフォルムや、イメージを持って撮影すること。グループ研究課題以外は、必ず、自分のカメラで、自分自身で、ピントを合わせ、シャッターを押し撮影すること。画像処理が前提の撮影と、撮影のみでフィニッシュする撮影があること。課題提出によって、画像処理禁止のものもあります。スタジオ器材、レンズ、PCは、授業内容に合わせて、授業貸しをします。授業中の課題提出に関わる商品は、原則、各自が用意すること。機材の用意は、事前に準備された機材を教務課から、当番制で持ってくること。当番は、白板に機材の名前、数量を書き出し、授業終了時に、確認すること。点呼以降、姿が見えない、授業中積極的に、機材のセッティングを行わない者は、減点とします。授業内容は、スキルに合わせて変更されます。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	機材の使用方法	機材の使い方
	2	基礎	ライティングの基本
	3	基礎	基本ライティングでに撮影
	4	写り込み	カトラリー・点光源
	5	写り込み	カトラリー・面光源
	6	採点	課題提出・確認
	7	ハイライト	缶撮影
	8	ハイライト	缶撮影
	9	透過光	ガラスコップ・ビン撮影
	10	透過光	透過光イメージ
	11	透過光	透過光・切り抜き
	12	自由	季節を考えたライティング
	13	多投	三面見せ
	14	多投	三面見せ切り抜き
	15	課題確認	課題提出・確認
後期	1	人物	人物撮影・基本ライティング
	2	人物	人物撮影・白バック
	3	人物	人物撮影黒バック
	4	人物	人物撮影全身
	5	人物	人物撮絵モデル撮影セット
	6	人物	人物撮影本番
	7	講評	課題提出・確認
	8	応用	食品撮影
	9	応用	食品イメージ
	10	応用	パン撮影
	11	応用	ケーキ撮影
	12	応用	時計撮影
	13	応用	革撮影
	14	応用	衣類撮影
	15	課題発表	スライドショー最終課題発表

評価方法	授業採点方法は、出席と課題提出です。欠席１回につき―5点・評価点はA～D（Dは加点無し）
テキスト	コマーシャルフォト

2026	区分	選択必修	対象	Ⅰ部2年制2年コマーシャルフォトゼミ・ブライダルポートレートゼミ

科目名	写真表現演習		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	中島 古英		
授業概要	「プレゼンテーション」と「作品講評」を授業の中心に捉え、学生一人ひとりの「考える力」と「表現の精度」の向上を目指します。自身の内面や独自の視点を「写真作品」として昇華させ、自身が制作した作品を客観的に捉える機会を作ります。具体的には、他者に見せることを前提としたポートフォリオを制作、公募展等にも出品する予定です。この授業で制作した作品が、この先の就職活動や作家活動などにも役立てていけることもねらいです。 【到達目標】 独自のコンセプトを構築し、そのための表現方法を模索し、自身の作品の魅力を他者に効果的に伝えられる能力を身につけることを目標とします。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業の概要説明、自己紹介、
	2	講義	写真家の作品（写真集、スライドなど）を見る、知る
	3	実習	ポートフォリオについて考える、リサーチ、アイデア出し等
	4	実習	公募展について、リサーチ□
	5	実習	公募展に向けたアイデア出し、ディスカッション
	6	実習	①プランチェック、作品制作□
	7	実習	①ディスカッション、講評
	8	実習	②プランチェック、制作
	9	実習	②ディスカッション、講評
	10	実習	③プランチェック、制作
	11	実習	③ディスカッション、講評
	12	実習	④プランチェック、制作
	13	実習	④ディスカッション、講評□
	14	実習	プレゼンテーション、講評
	15	実習	公募展出品作業、ディスカッション
後期	1	実習	公募展出品作業、ディスカッション
	2	実習	公募展出品作業、ディスカッション
	3	実習	公募展出品作品について講評、振り返り
	4	実習	新規公募展リサーチ等
	5	実習	写真展鑑賞についてのプレゼンテーション
	6	講義	ライフワークの写真と、仕事の写真について
	7	実習	作品制作、ディスカッション□
	8	実習	作品制作、ディスカッション□
	9	実習	作品制作、ディスカッション□
	10	実習	プレゼンテーション、講評
	11	実習	ポートフォリオまとめ作業、ディスカッション
	12	実習	ポートフォリオまとめ作業、ディスカッション
	13	実習	プレゼンテーション、講評
	14	実習	公募展鑑賞（校外演習）
	15	実習	一年の振り返り、まとめ

評価方法	制作物とプレゼンテーションの内容、出席率
テキスト	その都度紹介

2026	区分	選択必修	対象	Ⅰ部2年制2年ファッションポートレートゼミ・ライブステージフォトゼミ

科目名	写真表現演習		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	柳本 史歩		
授業概要	今授業では、「量」をつくることを目的とします。 ゼミなどで学んだ技法やテーマ、授業をきっかけに関心を持ったこと、これまで取り組んでこなかったテーマなど、身の回りには多くの題材があります。 本授業では、それらを対象に、意識的に撮影量を重ねていくことに焦点を当てます。 課題は1か月を一区切りとし、毎月発表を行うことを基本の流れとします。 発表の形式については、ガイダンス等でお知らせします。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業での目標と制作スケジュールの確認
	2	実習	第一回作品制作の準備
	3	実習	公開準備
	4	実習	公開準備
	5	講評	合評
	6	実習	第二回作品制作の準備
	7	実習	第二回作品制作の準備
	8	講評	合評
	9	実習	第三回作品制作の準備
	10	実習	第三回作品制作の準備
	11	実習	第三回作品制作の準備
	12	講評	合評
	13	実習	第四回作品制作の準備
	14	実習	第四回作品制作の準備
	15	講評	合評
後期	1	ガイダンス	後期の制作スケジュールの確認
	2	実習	第一回作品制作の準備
	3	実習	公開準備
	4	実習	公開準備
	5	講評	合評
	6	実習	第二回作品制作の準備
	7	実習	第二回作品制作の準備
	8	講評	合評
	9	実習	第三回作品制作の準備
	10	実習	第三回作品制作の準備
	11	実習	第三回作品制作の準備
	12	講評	合評
	13	実習	第四回作品制作の準備
	14	実習	第四回作品制作の準備
	15	講評	合評
評価方法	出席及び課題の提出　撮影量など		
テキスト			

Ⅰ部2年制

2026	区分	選択必修	対象	Ⅰ部2年制2年ドキュメンタリー・クリエイティブ・ネイチャー・スポーツ・PAゼミ

科目名	写真美術史		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	田 凱		
授業概要	写真と絵画の関係は、写真術誕生の初期から組んず解れつ展開してきました。近代は絵画表現では宗教的、理想的な世界が描かれるよりも、遠近法やレンズの光学など科学的理性的知見が注ぎ込まれて、現実世界が正確に描写することにつとめました。カメラ・オブスキュラが、デッサンの補助具としての歴史もあれば、写真はその後も、絵画の後塵を拝する場合もあったようだけれども、写真的視覚の登場で、様々な人間の知覚が内側から揺るがされ、人間の知覚経験が拡大されてきました。本講義では、美術と写真の不即不離な関係を軸にして、表現の基層を見つめながら20世紀の美術通史を見ていきます。写真は、原理において他の芸術表現とは異なるけれども、他領域でも手法として出陳されます。また、現代写真の傾向にあるのは、絵画、彫刻などの領域をも冒し、拡張することです。美術史の展開につれて、写真の特質がより明晰になっていきます、それは機械映像と人間の知覚との相互作用のことです。映像で見たことが自らの知見に取り込まれていきます。さらに近年、写真分野ではメディア技術の進化に伴い、新たな専門性を持った人材が切望されています。そのためにも写真映像の特性と他表現のつながりを見つめ直し、その知見を新時代の胎動と結びつけてゆくことが重要です。機械論的視覚論では解明できない、「見る」という能動的行為を探求していきます。 【到達目標】 ・表現とその時代を理解する力を身につけることを到達目標とします。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	イントロダクション	授業の内容、課題、提出方法、採点方法を説明／講義 － 表現の胎動、写真概念
	2	講義/実習	空間へ再考 -キュビスム
	3	講義/実習	色彩への再考 -フォーヴィスム
	4	講義/実習	抽象絵画の道のり -抽象絵画、バウハウスでの応用
	5	講義/実習	芸術自体への反逆 -ダダとシュールレアリスム、アジェの写真
	6	講義/実習	写真が表現への道のり － 写真概念の誕生、写真と絵画の葛藤
	7	講義/実習	戦争・革命と芸術 － 両大戦間と第二次世界大戦下のヨーロッパ
	8	講義/実習	アクションする色彩 － 戦後アメリカ抽象表現主義
	9	講義/実習	芸術と消費文化 － ネオ・ダダからポップアートへ
	10	講義/実習	現代の写真表現1　　口
	11	講義/実習	現代の写真表現2
	12	講義/実習	デザイン表現1 － バウハウス史、ポスター史
	13	講義/実習	デザイン演習2 － 名刺デザイン
	14	実習	自分の写真作品を用いて、マイ・ポスターを制作・事前課題
	15	全体講評	自分の写真作品を用いて、マイ・ポスターを発表
後期	1	講義/実習	後期説明、課題説明
	2	講義/実習	極限への追求 － ミニマリズムとポスト、ミニマリズム、モノ派
	3	講義/実習	思考のカタチ － コンセプチュアルアート、ランドアート、写真へ影響
	4	講義/実習	2000年までの芸術表現 － 新表現主義、公共アート、ニューペイティングなど
	5	講義/実習	現代の写真表現1 － アプロプリエーション、チャーズ・ジェネレーション
	6	講義/実習	現代の写真表現2 － アプロプリエーション、チャーズ・ジェネレーション
	7	講義/実習	映画と写真1 -初期映画
	8	講義/実習	映画と写真2 -「夢の工場」
	9	講義/実習	芸術家の主体的表現 － 中国文革期後の芸術　－シニカル・リアリズム、ポリティカル
	10	講義/実習	中国の現代写真　　－中国ニュートキュメンタリーとコンセプチュアルフォト
	11	講義/実習	展覧会見学　　－対象展覧会の作品研究、作品についてディスカッション・コラージュ作品を思索
	12	講義/実習	映画と写真3
	13	講義/実習	映画と写真4
	14	実習	コラージュ作品を制作
	15	全体講評	コラージュ作品を発表

評価方法	出席回数、授業態度、授業の理解度やレポートの明晰性、個人の発見や新視点の有無などの評価基準に基づいて、授業への取り組み（60%）と最終課題（40%）により評価します。
テキスト	伊藤俊治著 『写真と絵画のアルケオロジー』 白水社 『ジオラマ論』リブロポート　飯沢耕太郎監修『世界写真史』美術出版社、末永照和監修『20世紀の美術』美術出版社　ジル・モラ、前川修他訳『写真のキーワード：技術・表現・歴史』昭和堂　H・H・アーナスン、上田高弘他訳『現代美術の歴史』美術出版社ロバート・アトキンズ『近代美術のキーワード』美術出版社　ロバート・アトキンズ『現代美術のキーワード』美術出版社　中村興二・岸文和編『日本美術を学ぶ人のために』世界思想社

2026	区分	必修	対象	Ⅰ部2年制2年

科目名	映像表現論		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	江澤 勇介		
授業概要	写真表現・映像表現は、テクノロジーの進化、撮影技術の進歩、社会状況や人々の意識の変化など、さまざまな要因の中で、時代とともに変わり続けており、その変化は年々速さを増しているように思えます。 しかし、2～3年前の写真を古く感じることもあれば、50年前の写真が最新のものとして受け入れられることもあり、一方向に進化しているだけではなく、寄せては返す波のように、あちこち行ったり来たりしながら動き続けていると捉える方が的確かもしれません。 この授業では、写真や映像がどのような形で現在の社会の中にあるのか、これまでの経緯にも触れながら考え、学びます。 教室での講義だけにとどまらず、実際に現場を訪れて理解を深める校外実習や、写真・映像に関わる仕事をしている方々のお話を聞くゲスト講義などを通して、写真・映像の現在をさまざまな形で学んでいきます。 写真・映像と一口に言っても、ジャンルによってその内容は千差万別です。多様な現場で写真がどのように扱われているかを学ぶことで、自身の興味をより明確にし、卒業後の進路も含め、どのような形で写真と関わっていくのかを考える機会とします。 授業内容は、進行状況などに応じて随時変更する可能性があります。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	自己紹介	自己紹介、授業の説明
	2	ワーク 1	好きな写真について話してみる
	3	校外実習 1	写真の現場をみる 本屋編①
	4	校外実習 1	写真の現場をみる 振り返り編①
	5	校外実習 2	写真の現場をみる 展示編①
	6	校外実習 2	写真の現場をみる 振り返り編①
	7	校外実習 3	写真の現場をみる 展示編②
	8	校外実習 3	写真の現場をみる 振り返り編②
	9	ゲスト講義 1	写真の現場の話を聞こう ゲスト編①
	10	ゲスト講義 1	写真の現場の話を聞こう 振り返り編①
	11	校外実習 4	写真の現場をみる 展示編③
	12	校外実習 4	写真の現場をみる 振り返り編③
	13	校外実習 5	写真の現場をみる 職場見学編①
	14	校外実習 5	写真の現場をみる 振り返り編①
	15	ワーク 2	前期のまとめ
後期	1	講義	前期の振り返りと後期の説明
	2	ワーク 3	自分のキャリアを考える
	3	校外実習 6	写真の現場をみる 本屋編②
	4	校外実習 6	写真の現場をみる 振り返り編②
	5	校外実習 7	写真の現場をみる 展示編④
	6	校外実習 7	写真の現場をみる 振り返り編④
	7	校外実習 8	写真の現場をみる 展示編⑤
	8	校外実習 8	写真の現場をみる 振り返り編⑤
	9	ゲスト講義 2	写真の現場の話を聞こう ゲスト編②
	10	ゲスト講義 2	写真の現場の話を聞こう 振り返り編②
	11	校外実習 9	写真の現場をみる⑥ 展示編
	12	校外実習 9	写真の現場をみる⑥ 振り返り編
	13	ワーク 2	改めて好きな写真について話してみる①
	14	ワーク 3	改めて好きな写真について話してみる②
	15	ワーク 4	後期のまとめ
評価方法	出席、提出課題などを見て総合的に評価します。		
テキスト			

2026

2026 科目ガイド

《選択科目》

日本写真芸術専門学校

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学生

科目名	Web表現演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	須田 拓也		
授業概要	Webでの発信はSNSなどのサービスを利用することでも可能ですが、仕組みや技術を学ぶことで、自分だけのWebサイトを作ることができます。ポートフォリオサイトを制作して役立てることもできるでしょう。この授業では、できるだけ写真を用いた表現と関連付けて、Webの仕組みや作り方を学びます。 【到達目標】 ・自身の表現に活かせるように、Webに関する基本的な知識と技術を身につける。 ・Webサイトを制作・公開・運用する一連の手順を経験する。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	導入	コンピュータについて
	2	PC	ファイルについて
	3	PC	アプリについて
	4	PC	ネットワークについて
	5	デザイン	レイアウトについて
	6	デザイン	配色について
	7	デザイン	文字について
	8	Web	レスポンシブということ
	9	Web	コーディングについて（AIについて）
	10	Web	ノーコードについて
	11	課題	出題
	12	課題	制作
	13	課題	講評
	14		
	15		
後期	1	Web	ハイパーテキストとは
	2	Web	編集について
	3	Web	プログラミングについて
	4	動き	アニメーションについて
	5	動き	トランジションについて
	6	動き	インタラクションについて
	7	運用	公開について
	8	運用	更新について
	9	運用	CMSについて
	10	課題	計画
	11	課題	デザイン
	12	課題	デザイン
	13	課題	制作
	14	課題	制作
	15	課題	講評

評価方法	出席率、提出課題内容から総合的に評価します。
テキスト	必要に応じて配布します。

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	マガジンメイキング		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	岡崎 裕美		
授業概要	写真家にとって身近な媒体のひとつである雑誌を含む紙媒体の制作体験を通して、写真と印刷物の関係や編集などについて学びます。前期は雑誌や編集の基本的な知識を学び、それぞれのテーマに沿って、写真をセレクトし誌面を構成します。後期はグループワークのスタイルで雑誌を制作します。前期で学んだことを踏まえ、グループで協力しあってオリジナルの雑誌を企画し、一冊の雑誌を完成させます。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	講義	授業説明、マスメディアとは
	2	講義	マスメディアについて、雑誌の特徴（他のメディアとの比較）、雑誌制作の雑誌の流れと基本用語
	3	講義	雑誌の特徴２、出版社が制作するもの
	4	実習・講義	商業施設のリーフレット企画（個人課題）、発表
	5	実習	グループディスカッション、企画決定。台割作成
	6	実習・講義	制作する（素材を集め、レイアウトする）｜データの扱いについて、フォントについて
	7	実習・講義	制作する（素材集め、レイアウト、最終データ作成）｜レイアウトの基礎
	8	実習・講義	制作する（素材集め、レイアウト、最終データ作成）｜レイアウトの基礎②
	9	実習	制作　プレゼンテーションと講評
	10	実習・講義	雑誌の基本設計｜雑誌制作①-1　説明とグループ分け
	11	実習	雑誌制作①-2　グループ内で編集会議、台割作成｜雑誌制作の流れと基本用語②
	12	実習・講義	雑誌制作①-3　制作｜誌面の構成について
	13	実習	雑誌制作①-4　制作
	14		
	15		
後期	1	実習	雑誌制作①-5　制作
	2	実習・講義	雑誌制作①-6　制作｜データ提出
	3	実習・講義	雑誌制作①-7　プレゼンテーションと講評｜（制作物を踏まえて）レイアウト基礎③、レポート提出
	4	実習・講義	雑誌制作②-1 グループ分け、全体の編集会議（企画、台割）｜テキストについて
	5	実習・講義	雑誌制作②-3　制作｜段組について
	6	実習・講義	雑誌制作②-4　制作
	7	実習	雑誌制作②-5　制作、編集会議
	8	実習・講義	雑誌制作②-6　制作｜適切な画像データ
	9	実習・講義	雑誌制作②-7　制作｜テキストについて②
	10	実習	雑誌制作②-8　制作
	11	実習	雑誌制作②-9　制作
	12	実習	雑誌制作②-10　制作
	13	実習	雑誌制作②-11　制作
	14	実習	雑誌制作②-12　制作、印刷、製本
	15	実習	雑誌制作②-13　最終プレゼンテーションと講評

評価方法	出席率、積極性などから総合的に評価します。最終的な提出物の出来だけでなくプロセスを重視します。
テキスト	

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	文章表現演習Ⅰ		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	山岸 宏之		
授業概要	写真（ビジュアル）と言葉（文章）の関係性について考え、言葉が写真のコミュニケーション力を高めたり、写真という表現のフィールドを広げたりすることを理解し、さまざまなテーマについて演習を行います。 書くことは考えること、自分と向き合うこと、そしてさまざまな視点からモノ・コト・ヒトを考察することでもあります。 本授業では、「どう書くか（どれだけ上手く書くか）」よりも、「何を伝えたいか」を自分の言葉で書くことを目標とします。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	講義	授業の方針説明/写真と言葉の関係について
	2	演習	「自分と写真」について書いてみる　写真をはじめたきっかけ等
	3	演習	「自分と写真」について書いてみる　書く/提出
	4	演習	「卒業後の希望」について書いてみる　撮りたい写真等
	5	演習	「卒業後の希望」について書いてみる　書く・提出
	6	演習	「写真と広告」ポスターと写真とコピー　キャッチフレーズを書く
	7	演習	同上・新聞広告と写真とコピー　キャッチフレーズとコピーを書く
	8	演習	「写真と文章(エッセイ)」　写真と合わせて文章を書く
	9	演習	「写真と文章(エッセイ)」　発表/提出
	10	演習	「写真と文章(ルポタージュ)」　取材し文章を書く
	11	演習	「写真と文章(ルポタージュ)」　発表/提出
	12	演習	「写真と文章(私の好きなモノ・コト)」
	13	講評	前期のまとめ
	14		
	15		
後期	1	講義	自分の身近な人や街を写真と言葉で魅力的に表現する事について
	2	演習	身近な人を取材し、魅力的に表現する
	3	演習	身近な人を取材し、魅力的に表現する　プレゼン・提出
	4	演習	自分の住んでいる街について書く
	5	演習	自分の住んでいる街について書く　プレゼン・提出
	6	演習	自分の写真集のタイトルを考える
	7	演習	自分の写真集のタイトルを考える　プレゼン・提出
	8	演習	自分の写真展のタイトルを考える
	9	演習	自分の写真展について文章を書く
	10	講義	俳句について
	11	演習	俳句を作る/発表・提出
	12	講義	短歌について
	13	演習	短歌を作る/発表・提出
	14	演習	詩を作る
	15	講評	全体講評

評価方法	課題の提出状況および表現内容を総合的に判断して評価します。また、取り組みのプロセスや姿勢の評価という観点から、出席状況も重視します
テキスト	授業内配布プリント、関連資料を適宜参照

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	風景撮影演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	秦 達夫		
授業概要	このジャンルは自由にライティングを調整したり被写体とコミュニケーションを取ったりなど状況を撮り手がコントロールすることはできません。故に状況任せの撮影と思われがちですが、季節や天候を読み太陽の動きを観察しライティングやアプローチを考察する能力が必要です。また、絶景を複写するのではなく構図･遠近感をコントロールし独自の視点を創り出す事も重要。その他、写真を取り巻く人間関係はとても重要と考えているので、卒業後支援もしくは仕事仲間となり得る機材メーカーに訪問し交流の場を作ります。6月14日と11月22日に、御岳山で撮影実習を行います。 【到達目標】 ・四季、太陽や月の動きに対応しながら撮影する術を習得する		

授業計画	回数	主題・目的	日程	授業予定
前期	1	オリエンテーリング	2026/5/8	講師紹介、自己紹介、授業の進め方
	2	座学	2026/5/15	写真基礎
	3	－	2026/5/22	※休講とし、6月14日の御岳山撮影実習に振り替えます。
	4	座学&実習	2026/5/29	身近な光を探す
	5	座学&実習	2026/6/5	フィルター　レンズワーク
	6	座学&実習	2026/6/12	太陽･月について
	7	座学&実習	2026/6/19	6月14日御岳山撮影実習作品添削
	8	実習	2026/6/26	夕景撮影　四ツ木駅　夏至
	9	写真展探訪	2026/7/3	オリジナルプリントを観る
	10	写真展探訪	2026/7/10	写真の流れを見る
	11	座学	2026/7/17	星景写真
	12	－	2026/7/24	※休講とし、6月14日の御岳山撮影実習に振り替えます。
	13	－	2026/9/4	※休講とし、6月14日の御岳山撮影実習に振り替えます。
	14			
	15			
後期	1	座学	2026/10/9	夏休みの課題添削
	2	座学	2026/10/16	多重撮影　比較明合成
	3	座学&実習	2026/10/23	花の撮影について
	4	座学&実習	2026/10/30	タイムラプス
	5	座学	2026/11/6	紅葉の撮り方
	6	実習	2026/11/13	代々木公園撮影実習
	7	作品添削	2026/11/20	代々木公園撮影作品添削
	8	作品添削	2026/11/27	11月22日御岳山撮影実習添削
	9	－	2026/12/4	※休講とし、11月22日の御岳山撮影実習に振り替えます。
	10	－	2026/12/11	※休講とし、11月22日の御岳山撮影実習に振り替えます。
	11	実習	2026/12/18	夕景撮影　四ツ木駅　冬至
	12	作品添削	2026/1/8	夕景撮影　作品添削
	13	添削	2026/1/15	冬休みの課題
	14	座学	2026/1/22	冬の装備
	15	座学	2026/1/29	1年のまとめ

評価方法	出席、提出物にて評価します。
テキスト	

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	フォトアート演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	村越 としや		
授業概要	インターネットで簡単に回答を得ることができるようになり、「考える」ということが疎かになっているように感じます。そもそも「考える」というのは非常に困難な作業であり、インターネットの普及によって効率的に素早く回答を得られることは、多くの人にとって有益なことでしょう。 しかし、そこで得た回答は、本当に知識や経験として自分自身に定着したと言えるのでしょうか。本授業では、考えることの基礎を作り上げること、長く取り組めるテーマを見つけること、それをどのように継続していくかを軸に進めていきます。 写真を撮ることはもちろん重要ですが、それ以前とそれ以後の思考や行動は、さらに重要であると考えています。インターネット上で大量の写真や情報が消費されていく現代において、消費されない写真とは何か、消費されない言葉とは何かを、一緒に考えていきましょう。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	制作途中の写真についてディスカッションとカウンセリングをし、写真の質と量を高める
	2	発表と講評	
	3	発表と講評	
	4	発表と講評	
	5	発表と講評	
	6	発表と講評	
	7	発表と講評	
	8	発表と講評	
	9	発表と講評	
	10	発表と講評	
	11	発表と講評	
	12	発表と講評	
	13	発表と講評	
	14		
	15		
後期	1	ガイダンス	制作途中の写真についてディスカッションとカウンセリングをし、写真の質と量を高める
	2	発表と講評	
	3	発表と講評	
	4	発表と講評	
	5	発表と講評	
	6	発表と講評	
	7	発表と講評	
	8	発表と講評	
	9	発表と講評	
	10	発表と講評	
	11	発表と講評	
	12	発表と講評	
	13	発表と講評	
	14	発表と講評	
	15	発表と講評	

評価方法	授業の出席回数と、提出課題の評価で総合的に判断します。
テキスト	特になし

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	デジタル表現演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	坂口 トモユキ		
授業概要	作品制作において撮影から編集、そして発表のアウトプットにいたるまで、デジタル・ネット社会の利点を活かした課題に取り組みます。 毎日写真をアップするSNS型課題、デジタル合成を前提としたセットアップ・ランドスケープ課題、写真作品としての4K動画課題、そして前期後期ともにオンデマンド印刷とSNSネット通販を想定した写真冊子（zine）を制作します。 ※各課題においてデジタルカメラとAdobe Photoshop、Lightroom Classic、InDesign、Premiere Proの所有が前提となります。 【到達目標】 ・各自で自主的にデジタル・ネット環境を活かした自作品の制作・発表形態を発案・実践		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエン	オリエンテーション・課題説明
	2	SNS型写真作品	毎日SNS写真課題　Tumblrセッティングとテスト
	3		毎日SNS写真課題　プレゼン講評
	4		毎日SNS写真課題から新しい組作品を作る（編集制作）
	5		課題発表
	6	デジタル合成	デジタルランドスケープ・演出合成作品研究
	7		各自制作　作品コンセプト・制作プロセス検討
	8		各自制作：撮影・合成編集
	9		各自制作：撮影・合成編集
	10		課題発表
	11	簡易ZINE制作	８ｐ 写真冊子・ZINE型写真作品（SNS型・合成いずれかから）
	12		各自制作：編集・印刷
	13		作品発表と講評
	14		
	15		
後期	1	スライドショー	スライドショーとしての作品　課題説明
	2	動画作品	各自制作
	3		作品発表と講評
	4	写真としての	写真作品として鑑賞される動画作品　課題説明・テスト撮影
	5	動画作品	各自制作　撮影・編集１
	6		各自制作　撮影・編集２
	7		各自制作　編集完成
	8		作品発表と講評
	9	ZINE作品制作	頒布可能なオンデマンド印刷冊子としての写真ZINE 課題説明
	10		編集企画検討（自由作品。フィルム作品も可）
	11		デザイン・編集制作１
	12		デザイン・編集制作２
	13		デザイン・編集制作３　発注とデータ入稿
	14		完成冊子の商品撮影・SNS公開
	15		作品発表と講評

評価方法	提出された課題 50%、授業内での実習制作への積極性50%で評価。未提出課題がある場合は不合格とする。また、すべての課題は授業内での新規制作を必須とし、過去の制作物の提出は不合格とする。
テキスト	テキストは随時配布

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	ムービー制作演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	小島 真也		
授業概要	ムービーや映像ではなく「動画」と呼ばれ、撮ることも観ることも身近になった昨今、写真家にもスチルだけでなくムービーの感覚が強く求められています。 スチル（写真）とムービー（動画）では、コンテンツ制作において多くの違いがあります。本講座では、タイプの異なる3つのコンテンツを制作することで、ムービー制作への理解を深めることを目的とします。 1.ミュージックビデオ（楽曲は自由） 2.対談コンテンツ（テレビ番組・YouTube風） 3.コマーシャルムービー（15～30秒）		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	概 論	ランダムMV＋ワークフロー＋ムービー基礎知識＋撮影の基本設定
	2	ミュージックビデオ	制作方法とMV構成（メモ、コンテ）
	3	ミュージックビデオ	撮影（スタジオ、自宅など）
	4	ミュージックビデオ	編集基本① - Premiere Proの基本
	5	ミュージックビデオ	編集基本② - MVのセオリー
	6	ミュージックビデオ	編集基本③ - カラーグレーディング
	7	ミュージックビデオ	編集実習
	8	映像技術の基礎	講評
	9	映像技術の基礎	撮影①
	10	映像技術の基礎	撮影②
	11	映像技術の基礎	ライティング①
	12	映像技術の基礎	ライティング②、録音①
	13	映像技術の基礎	録音②
	14		
	15		
後期	1	対談コンテンツ（グループ制作）	対談コンテンツの企画
	2		対談コンテンツの構成①
	3		対談コンテンツの構成②/構成台本作成
	4		収録の事前準備/チーム内の技術確認と役割分担
	5		収録①（スタジオ）
	6	コマーシャルムービー（学内サイネージ発表）	収録②（スタジオ）
	7		編集実習
	8		企画①
	9		企画②
	10		構成①
	11		構成②、台本（画コンテ）作成
	12		撮影/スタジオ他
	13		編集実習（BGMなど）
	14		編集実習（BGMなど）
	15		講評

評価方法	制作過程での取り組みと提出課題、仕上がり評価
テキスト	SchooSwingにて、レジュメをプレビュー

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	ダークルーム		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	柳本 史歩		
授業概要	フィルムカメラでの撮影・現像・プリント作業を通して、写真の原理の基礎を理解します。これらの知識はフィルムに限らず、デジタルカメラでの撮影や仕上げにも共通するものです。本授業では、撮影・現像・プリントの工程を繰り返し行い、基礎知識の定着と、フィルムによるプリント作品の仕上げまでの技術習得を目指します。授業は暗室での作業を中心に進めます。 なお、授業で使用するフィルムおよび印画紙は各自で準備してください。 ※月曜1限・2限は、いずれも同一のカリキュラムです。 【到達目標】 ・モノクロフィルムによる撮影から現像、プリントまでの一連の工程を習得する。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業内容・進行・課題などの説明。
	2	撮影	フィルムカメラでの撮影
	3	現像	フィルム現像の準備と練習
	4	現像	フィルム現像
	5	プリント	プリントの準備とコンタクトプリント
	6	プリント	印画紙プリント
	7	プリント	印画紙プリント
	8	プリント	印画紙プリント
	9	プリント	印画紙プリント
	10	合評	
	11	現像	フィルム現像
	12	プリント	印画紙プリント
	13	プリント	印画紙プリント
	14		
	15		
後期	1	ガイダンス	授業内容・進行・課題などの説明。
	2	撮影	ブローニーフィルムでの撮影
	3	現像	フィルム現像
	4	プリント	印画紙プリント
	5	プリント	印画紙プリント
	6	現像	課題作品づくり
	7	プリント	課題作品づくり
	8	プリント	課題作品づくり
	9	プリント・座学	中間報告
	10	現像	課題作品づくり
	11	プリント	課題作品づくり
	12	プリント	課題作品づくり
	13	現像	課題作品づくり
	14	プリント	課題作品づくり
	15	合評	

評価方法	出席回数・課題提出の有無で評価
テキスト	授業進行に伴い都度紹介

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	ダークルーム		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	松井 寛泰		
授業概要	この授業は、伝統的な銀塩モノクロプリントを扱う授業です。モノクロフィルムを使用し、撮影から現像、プリントまでの技術を習得するとともに、デジタル・銀塩を問わず、幅広い意味での写真の見せ方や伝え方を考察・体得することを目的としています。 前期では、モノクロフィルムの現像からプリントまでの流れを把握し、写真表現の基礎を学びます。前期・後期ともに、撮影課題に沿った作品制作に取り組みます。 授業は主に暗室での実技を中心に行います。また、履修者の習熟度等により、一部進行に変更が生じる場合があります。 本授業は、金曜3限に実施する科目です。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	機材説明 プリント手順 オリジナルプリントとは/撮影
	2	講義	フィルム現像デモンストレーション/リールに巻く練習/機材
	3	現像	フィルム現像
	4	講義	プリントデモンストレーション/コンタクト/引き延ばし/機材
	5	プリント	コンタクトプリント
	6	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整1
	7	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整2
	8	現像	フィルム現像
	9	プリント	焼き込み/覆い焼き
	10	プリント	コントラストコントロール
	11	現像	フィルム現像
	12	プリント	プリント
	13	講義	前期のまとめ/前期課題講評
	14		
	15		
後期	1	ガイダンス	後期の授業の流れについて／後期課題について
	2	現像	フィルム現像
	3	プリント	プリント作業
	4	特殊技法	ソラリゼーション
	5	プリント	プリント作業
	6	プリント	プリント作業
	7	講義	スポッティング/サイアノタイプ説明
	8	講義	サイアノタイプ
	9	プリント	プリント作業
	10	プリント	プリント作業
	11	現像	フィルム現像
	12	プリント	プリント作業
	13	プリント	プリント作業
	14	プリント	プリント作業
	15	講評	後期課題講評

評価方法	出席日数、提出物、授業態度
テキスト	

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	写真創作演習Ⅱ		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	フジモリ　メグミ		
授業概要	私は17歳とのきに、ナン・ゴールディンのドキュメンタリービデオをみたことをきっかけに、写真学校へ進学することにしました。写真をはじめたきっかけは、みんなそれぞれにあると思います。 みなさんはなぜ、写真を勉強しようとおもったのでしょうか？ なぜ、写真家・カメラマンになろうとおもったのでしょうか？ この授業ではなぜ？に対する答えを繰り返し出す、という作業をしていきます。その中で、自分自身の写真に対する意見や、クラスメイトの写真に対する意見を言い合っていきます。「うまい」言葉で表現する必要はありませんので、積極的に授業に参加してください。写真の完成度ではなく、写真に向き合う姿勢を身につけることを目指します。そこから、作品を完成させるために必要なことを学んでください。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	自己紹介	持参物→これまで撮ってきた写真 自分にとって写真とは？なぜ写真なのか
	2	実習・課題	「学校」
	3	↓	中間講評・撮影
	4	↓	中間講評・撮影
	5	↓	zineにまとめる
	6	実習・課題	「家族」
	7	↓	中間講評・撮影
	8	↓	中間講評・撮影
	9	↓	zineにまとめる
	10	まとめ	発表
	11	実習・課題	「私」をテーマに撮影
	12	↓	中間講評・撮影
	13	↓	中間講評・撮影撮影　夏休みの課題説明
	14		
	15		
後期	1	↓	「私」をテーマに撮影の続き　中間講評・撮影
	2	↓	↓
	3	まとめ	zineやポートフォリオにまとめる
	4	実習・課題	「ポートレート」
	5	↓	中間講評・撮影
	6	↓	中間講評・撮影
	7	↓	zineやポートフォリオにまとめる
	8	実習・課題	「フェチ」
	9	↓	中間講評・撮影
	10	↓	中間講評・撮影
	11	↓	中間講評・撮影
	12	まとめ	zineやポートフォリオにまとめる
	13	実習・課題	「自由テーマ」
	14	↓	中間講評・撮影
	15	総括	中間講評・撮影

評価方法	提出頻度、作品内容、出席回数
テキスト	必要に応じて随時指定します。

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	写真創作演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	田 凱		
授業概要	本授業では、いわゆる正統的な写真表現と、フォトグラム、ルーメンプリント、シルクスクリーン印刷などに代表されるオルタナティブ・プロセスを横断的に扱い、それぞれの課題を交差的に実践します。 模写の過程を基礎としながら、写真というメディアの特質を多角的に理解することを目的とします。異なる技法の比較と実践を通して検証し、写真が単なる記録手段にとどまらず、表現媒体としてどのような可能性を持つのかを学びます。 最終的には、各自の制作過程と表現研究の成果を統合し、写真と言語、構成、編集を含めて総合的に考察したクリエイティブなアーティストブックとしてまとめ上げることを、本授業の到達目標とします。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	説明	授業の内容説明・個人面談
	2	講義 ディスカッション 実習	課題①　課題説明
	3		課題①　経過確認・ブラッシュアップ
	4		課題①　経過確認・ブラッシュアップ
	5		課題①　講評
	6		課題②　課題説明
	7		課題②　経過確認・ブラッシュアップ
	8		課題②　経過確認・ブラッシュアップ
	9		課題②　講評
	10		課題③　課題説明
	11		課題③　経過確認・ブラッシュアップ
	12		課題③　経過確認・ブラッシュアップ
	13		課題③　講評
	14		
	15		
後期	1	説明	授業の内容説明　個人面談
	2	講義 ディスカッション 実習	課題④　課題説明
	3		課題④　経過確認・ブラッシュアップ
	4		課題④　経過確認・ブラッシュアップ
	5		課題④　講評
	6		課題⑤　課題説明
	7		課題⑤　経過確認・ブラッシュアップ
	8		課題⑤　経過確認・ブラッシュアップ
	9		課題⑤　講評
	10		課題⑥　課題説明
	11		課題⑥　経過確認・ブラッシュアップ
	12		課題⑥　経過確認・ブラッシュアップ
	13		課題⑥　講評
	14		課題⑦　課題説明
	15	まとめ	課題⑦　最終講評

評価方法	出席状況に加え、授業態度、課題への取り組みの継続性、成果物の完成度を総合的に判断して評価します。特に、講師とのコミュニケーションを通して、課題意識や表現方法を更新しながら取り組む姿勢を重視します。評価方法は、平常点40%、課題30%、最終成果30%とします。
テキスト	『現代写真論――コンテンポラリーアートとしての写真のゆくえ』シャーロット・コットン著、『写真論――距離・他者・歴史』港千尋著、『増補 20世紀写真史』伊藤俊治著、ほか、必要に応じて随時指定します。

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	フォトクリエイティブ演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	奥 初起		
授業概要	この授業は、みなさんのクリエイティビティを高めながら作品を制作していきます。年間で四つの課題に対してポートフォリオ（自作の作品集）を制作します。お題は決まっていますが、それぞれの被写体や表現方法はディスカッションを行いながら決めていきます。 また、様々な表現方法をインプットしていくための実習も行います。カメラマン、フォトグラファー、作家など呼び方はたくさんありますが、共通して必要なことはそれぞれのクリエイティビティです。そして、それを形にしていくための技術と知識だと私は考えています。皆さんが専門的に学んだ（もしくはこれから学ぶ）ことを活かして作品制作を行っていきましょう。 【到達目標】 ・自身の作品を制作し、まとめる力を身につける。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	作品検討	現在までに各自が撮影した写真を持ち寄ったディスカッション/GW課題解説
	2	講義/実習	GW課題講評/課題①解説/インクジェットプリンターを使ったプリントワーク
	3	講義/講評	様々な表現方法を知る/課題①作品講評
	4	作品講評	課題①作品講評
	5	講評/講義	課題①作品講評/様々な写真集を見る
	6	作品講評	課題①作品講評
	7	実習	大判カメラ、中判デジタルカメラを使った撮影
	8	作品講評	課題①作品講評
	9	作品講評	課題①作品講評
	10	実習	Photoshopレタッチ/インクジェットプリンターを使ったプリントワーク
	11	作品講評	課題①作品講評
	12	作品講評	課題①ポートフォリオ提出/講評/課題②「旅」説明
	13	作品講評	課題②ポートフォリオ提出、講評、課題③「新しい場所」解説
	14		
	15		
後期	1	講義/講評	様々な写真集を見る/作品講評
	2	実習/講評	フィルターワークの実習/作品講評
	3	作品講評	課題③作品講評
	4	作品講評	課題③作品講評
	5	作品講評	課題③作品講評
	6	作品講評	課題③作品講評
	7	作品講評	課題③作品講評
	8	作品講評	課題③作品講評
	9	作品講評	課題③作品講評、課題④「自由」解説
	10	講評/講義	課題③作品講評
	11	作品講評	課題③ポートフォリオ提出、講評
	12	作品講評	課題④作品講評
	13	作品講評	課題④作品講評
	14	作品講評	課題④作品講評
	15	作品講評	課題④ポートフォリオ提出、講評

評価方法	出席回数、課題の提出頻度、課題内容
テキスト	

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	ルポルタージュ演習		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	五十嵐 太二		
授業概要	ルポルタージュとは、自分が現場で実際に見聞きした事実に基づいて報告を行うことであり、主に写真と文章が用いられます。 この授業では課題（ルポ）を中心に、①そもそも自分は何に関心があるのか、また問題意識を持つためには何が必要なのか、②取材準備とリサーチ方法、③企画書作成、④現場取材（撮影＋取材ノート）、⑤編集（写真の選択・文章作成）、⑥発表について考えていきます。 あわせて、写真学生が苦手としがちな文章表現の基礎も学びます。ブログ発信や、雑誌・新聞・Webメディアなどへの掲載にも挑戦します。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	授業内容説明、各自の関心事項を発表、課題（ルポ①～③）の説明
	2	段取り確認	ルポ①　テーマ「身近な人の得意料理」　⇨　取材準備作業
	3	課題～ルポ①	作品発表・全員で講評
	4	発表・講評	作品発表・全員で講評
	5	発表・講評	作品発表・全員で講評
	6	課題～ルポ②	ルポ②　テーマ「クラスメートが写真を始めたわけ」　⇨　取材準備作業
	7	発表・講評	作品発表・全員で講評
	8	発表・講評	作品発表・全員で講評
	9	発表・講評	作品発表・全員で講評
	10	課題～ルポ③	ルポ③　テーマ「身近にある社会問題」　⇨　取材準備作業
	11	発表・講評	作品発表・全員で講評
	12	発表・講評	作品発表・全員で講評
	13	発表・講評	作品発表・全員で講評
	14		
	15		
後期	1	課題～ルポ④	ルポ④　テーマ「身近にある社会問題」　⇨　取材準備作業
	2	発表・講評	作品発表・全員で講評
	3	発表・講評	作品発表・全員で講評
	4	発表・講評	作品発表・全員で講評
	5	課題～ルポ⑤	食レポに挑戦（味や香りなど、目に見えないものを文字と写真で表現する）
	6	発表・講評	作品発表・講評
	7	発表・講評	作品発表・講評
	8	文章に親しむ	読書会（好きな本を持ち寄り読書会。ルポルタージュ本、文学作品など自由）
	9	文章に親しむ	ゲストスピーカー
	10	課題～ルポ⑥	ルポ⑥　テーマ「身近にある社会問題」　⇨　取材準備作業
	11	発表・講評	作品発表・全員で講評
	12	発表・講評	作品発表・全員で講評
	13	課題～ルポ⑦	ルポ⑦　テーマ「身近にある社会問題」　⇨　取材準備作業
	14	発表・講評	作品発表・全員で講評
	15	発表・講評	作品発表・全員で講評

評価方法	出席、理解度・習熟度、課題作品、授業態度などを総合的に評価。
テキスト	授業配布プリント

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	ビジュアルデザイン		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	泉　美菜子・宮添　浩司		
授業概要	写真表現を他者に伝えるためのメディアとしての印刷表現を通して、ビジュアルデザインの基礎を学びます。 前期では、Adobe IllustratorとAdobe InDesignの基本操作を学びながら、書体や構成、編集などの考え方を身につけます。 後期では、前期で身につけた知識を活かし、印刷物による自由な自己表現を深め、意見交換を行います。 課題制作のために別途撮影が必要となるなど、授業外での制作時間の確保が求められるため、積極的に楽しみながら取り組む姿勢を望みます。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	イントロダクション	講師紹介、イラレとインデザインを触ってみる、機能の説明
	2	名刺を作る	情報を整理する、書体を選ぶ、合成フォント、レイアウトする
	3	フライヤーを作る:1	紙面設計の考え方について、制作
	4	フライヤーを作る:2	制作、講評
	5	ZINEを作る 1	テーマ＝英字と数字　Indesignの使い方、写真の配置と考え方
	6	ZINEを作る 2	制作、出力
	7	ZINEを作る 3	講評
	8	製本を知る	ゲスト
	9	インタビュー誌を作る1	課題説明、編集の基礎、構想を練る、グループディスカッション
	10	インタビュー誌を作る2	インタビューやテーマについての報告会、フォーマットの検討
	11	インタビュー誌を作る3	講評
	12	紙を知る	竹尾見本帖本店見学・レクチャー
	13	講義	デザインワークショップ
	14		
	15		
後期	1	展示を設計する1	自分の個展を想定した展示プランを制作する
	2	展示を設計する2	制作
	3	展示を設計する3	講評
	4	アートzineを作る1	テーマ＝心象風景
	5	印刷を学ぶ	印刷所見学
	6	アートzineを作る2	講評、意見交換
	7	アートブックを作る1	テーマ：Identity ハードカバーの本を作る
	8	製本を知る	上製本 製本実習
	9	アートブックを作る2	制作
	10	アートブックを作る3	講評
	11	アートポスターを作る1	テーマ：私の好きな曲　B2サイズのポスターを作る
	12	アートポスターを作る2	制作
	13	実寸を知る	デザインワークショップ
	14	アートポスターを作る3	制作
	15	アートポスターを作る4	講評
評価方法			
テキスト			

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	写真史		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	江澤 勇介		
授業概要	写真史。写真の歴史という意味ですね。写真はひとまず置いて、歴史とは何でしょうか。 この授業では受験勉強のように年号と出来事を暗記することを目指すのではなく、写真という発明によって人々の感覚がどう変化してきたのか、その中でどんな表現が生まれ受け入れられてきたのかを学び、現在のリアリティと比較しながら考えていきます。写真の歴史を知ることは、自分がこれから撮る写真に直結するとても重要な学びになります。とりあえずこの授業では写真の歴史をそんな引用元、データベースとして捉えられるように学んでみたいと思います。全体を俯瞰的にというよりは、歴史の中から自分の好きな写真を見つけ、語れるようになることを目的とします。 そして講師の私は写真史の専門家ではありません。ですが専門性の外から考える、それ自体が少し写真ぽいんじゃないかなという気もしています。本格的な写真史の授業とは違う流れになると思いますが、写真について楽しみながら学ぶ時間を作れたらと思います。 授業内容は進行状況などに応じて随時変更する可能性があります。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	自己紹介	自己紹介、授業の説明
	2	写真の歴史	世界の写真1
	3	写真の歴史	世界の写真2
	4	写真の歴史	世界の写真3
	5	写真の歴史	世界の写真4
	6	写真の歴史	世界の写真5
	7	写真の歴史	世界の写真6
	8	写真の歴史	世界の写真7
	9	写真の歴史	世界の写真8
	10	写真の歴史	世界の写真9
	11	写真の歴史	世界の写真10
	12	写真の歴史	世界の写真11
	13	写真の歴史	世界の写真12
	14		
	15		
後期	1	写真の歴史	日本の写真1
	2	写真の歴史	日本の写真2
	3	写真の歴史	日本の写真3
	4	写真の歴史	日本の写真4
	5	写真の歴史	日本の写真5
	6	写真の歴史	日本の写真6
	7	写真の歴史	日本の写真7
	8	写真の歴史	日本の写真8
	9	写真の歴史	日本の写真9
	10	写真の歴史	日本の写真10
	11	写真の歴史	日本の写真11
	12	写真の歴史	日本の写真12
	13	写真の歴史	自分の好きな写真の系譜1
	14	写真の歴史	自分の好きな写真の系譜2
	15	写真の歴史	まとめ

評価方法	出席、提出課題などを見て総合的に評価します。
テキスト	

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	写真科学		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	船生　望		
授業概要	本授業は、講義によって写真の理論的知識を付与することを主目的としていますが、写真の科学的側面への関心を促すため、撮影の基本技術や画像品質に関わる実習も行います。講義では、デジタル写真システムで使用する撮影機材やコンピュータ、周辺機器、光や色などに関する主要な事項を学習します。後期には、写真の国家資格である写真技能検定の過去問題を演習し、実務的な知識の習得を目指します。 実習では、テストチャートなどの撮影を通して、再現性の高い効率的な撮影方法を習得するとともに、画像品質の評価と改善につながる課題に取り組みます。 【到達目標】 ・写真技能検定3級取得程度の知識と技術を習得する。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	講義	ガイダンス／写真画像形成のあゆみ
	2	講義	写真のしくみと撮影のプロセス
	3	講義	カメラとレンズ、画像ファイル形式
	4	実習	カメラをまっすぐにかまえる
	5	実習	テストチャートを均等に配置する、均等に照明する
	6	実習	三脚をつかって、テストチャートにカメラを対面させる
	7	講義	露出と照明、人工光源とその対応
	8	実習	画像の明るさをそろえる
	9	実習	手ブレによる画質の低下を見比べる
	10	実習	絞りによるレンズの描写のちがいを見比べる
	11	実習	全身をまっすぐにフレームに収める
	12	講義	前期授業のまとめ
	13	まとめ	筆記テスト
	14		
	15		
後期	1	講義	ガイダンス／写真撮影の主要事項
	2	講義	光と色
	3	講義	コンピュータ・ディスプレイ・プリンタ
	4	実習	シャッターとイメージセンサのシャッタ機能を比較する
	5	実習	ISO感度による画質への影響を確かめる
	6	実習	鮮鋭に撮影できているかを確かめる
	7	実習	撮影画像の解像性を比較する
	8	実習	撮影画像の階調性を比較する
	9	演習	撮影画像の色再現性を比較する
	10	演習	写真技能検定3級の過去問題の演習
	11	演習	写真技能検定3級の過去問題の演習
	12	演習	写真技能検定2級の過去問題の演習
	13	演習	写真技能検定2級の過去問題の演習
	14	講義	後期授業のまとめ
	15	まとめ	筆記テスト

評価方法	筆記テストと課題の提出および平常点
テキスト	授業内配布プリント

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	編集出版論		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	岡崎 裕美		
授業概要	写真が世に出るひとつの媒体としての印刷物や出版物について、またその中のひとつとしての写真集について学びます。 撮り手ではない立場から写真を関わる経験は、伝える力につながります。前期は、メディアにおける写真の役割、写真集の作りについて考えます。後期から、写真をまとめる上での写真と言葉について、写真編集について学び、それまでの内容を自分の作品をまとめる作業に活かしていくという流れで進めます。 講義やディスカッションのほかに、実習の授業ではZINE・印刷物制作や写真編集を行います。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	講義	出版メディアの特徴、写真の役割
	2	講義	写真を使って伝える 1
	3	講義	写真を使って伝える 2（ポスター企画）発表|編集者の役割
	4	講義/実習	雑誌の特徴について考える|編集者の役割
	5	講義/実習	雑誌の写真について考える
	6	講義/実習	雑誌の記事広告を企画する
	7	講義/実習	制作①-1 雑誌の記事広告制作
	8	実習	制作①-2 雑誌の記事広告制作
	9	実習	制作①-3 雑誌の記事広告制作｜テキストの注意点
	10	講義/実習	制作①-4 発表、講評、レポート
	11	講義/実習	印刷の基礎知識 1
	12	講義	雑誌の写真と写真集の写真について
	13	講義/実習	
	14		
	15		
後期	1	実習/講義	ページネーションについて
	2	実習/講義	ページネーションと物語について
	3	実習/講義	写真集のページネーションとレイアウト
	4	実習/講義	写真集の仕様
	5	実習	制作②-1 自分以外の人の写真を編集する
	6	実習	制作②-2 自分以外の人の写真を編集しZINEを企画する
	7	実習/講義	制作②-3 DMとプレスリリース
	8	実習	制作②-4 ZINE制作
	9	実習	制作②-5 ZINE制作
	10	実習/講義	プレゼンテーション（ZINE、DM、プレスリリース）
	11	実習	自分の写真を編集する１
	12	実習	自分の写真を編集する２
	13	実習	プレスリリースとDM、ステートメントを作る
	14	講義	プレゼンテーションと講評（ZINE、DM、プレスリリース、ステートメント）
	15	実習	印刷の基礎知識 2（印刷博物館見学）

評価方法	出席、提出課題などを見て総合的に評価します。
テキスト	

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	ドキュメンタリー写真論		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	江澤 勇介		
授業概要	写真家になるためには、作品を制作しなければなりません。作品を制作するためには、作品と呼べる写真(写真群)が、どのようなものなのかを理解しなければなりません。そのために、この授業では、1950年代以降のドキュメンタリー写真を中心に世界の様々な写真集を見てもらいます。 前半は、年代を10年ごとに区切り、写真史の中でその時代の特徴をもち、その後に影響を与えた作品を中心に、2010年代まで見ていきます。その中で、写真史的流れとその時代の作品の特徴などを解説していきます。後半の最初の4回は「戦争」を対象にした作品を見ます。5回以降は、国、地域にまとめた写真集を見てもらいます。似たような被写体が、写真家によってテーマや撮り方が異なることを学んでもらいます。後半では、前半のようにまとめた解説はしませんが、作品に対する質問がしたい場合は、授業中に、個別に質問をしてください。授業の進め方は、同じ年代、国の写真集を2回の授業で見てもらいます。その際に、2回目の授業の終わり1時間で、その回の自分の気になった作品を一冊以上選び、その作品の感想文(字数800字以上)を書いて提出してもらいます。成績は、授業ごとに提出された感想文の平均点とします。 授業内容は進行状況などに応じて随時変更する可能性があります。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	講義・読解	＜1900年代～1950年代＞パブリックな視線からプライベートな視線へ
	2	講義・読解	＜1900年代～1950年代＞パブリックな視線からプライベートな視線へ
	3	講義・読解	＜1900年代～1950年代＞パブリックな視線からプライベートな視線へ ①感想文提出
	4	講義・読解	＜1960年代＞コンテンポラリーフォトグラファーズ展、ニュードキュメンツ展の写真家た
	5	講義・読解	＜1960年代＞コンテンポラリーフォトグラファーズ展、ニュードキュメンツ展の写真家たち ②感想文提
	6	講義・読解	＜1970年代＞ニュートポグラフィクス、ニューカラー、タイポロジー ③感想文提出
	7	講義・読解	＜1980/90年代＞コンストラクティッド・フォト(構成的写真)、ステージド・フォト(演じられた写真)、プライベート・フォ
	8	講義・読解	＜1980/90年代＞コンストラクティッド・フォト(構成的写真)、ステージド・フォト(演じられた写真)
	9	講義・読解	プライベート・フォト④ 感想文提出
	10	講義・読解	＜2000年代＞ドキュメンタリー写真の現在
	11	講義・読解	＜2000年代＞ドキュメンタリー写真の現在 ⑤感想文提出
	12	講義・読解	＜2010年代＞
	13	講義・読解	＜2010年代＞ ⑥感想文提出
	14		
	15		
後期	1	写真の歴史	＜戦争＞戦場の写真家たち
	2	写真の歴史	＜戦争＞戦場の写真家たち ①感想文提出
	3	写真の歴史	＜戦争＞過去の戦争を撮る写真家たち
	4	写真の歴史	＜戦争＞過去の戦争を撮る写真家たち ②感想文提出
	5	写真の歴史	＜日本・東京＞
	6	写真の歴史	＜日本・東京＞ ③感想文提出
	7	写真の歴史	＜アメリカ＞
	8	写真の歴史	＜アメリカ＞ ④感想文提出
	9	写真の歴史	＜カリブ・中・南米＞
	10	写真の歴史	＜カリブ・中・南米＞ ⑤感想文提出
	11	写真の歴史	＜アジア＞インドを中心に
	12	写真の歴史	＜アジア＞インドを中心に ⑥感想文提出
	13	写真の歴史	＜アジア＞中国を中心に
	14	写真の歴史	＜アジア＞中国を中心に ⑥感想文提出
	15	写真の歴史	〈東ヨーロッパ〉〈PORTRAIT〉

評価方法	出席、提出課題などを見て総合的に評価します。
テキスト	

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	英会話		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	ユーリア・スコーゴレワ		
授業概要	将来、世界で活躍したいと思いませんか？英語を話せることで、さまざまな可能性が広がります。 このクラスでは、写真業界に必要な表現を学びながら、世界へと視野を広げていきます。 国際的なキャリアを目指す学生にぴったりのこのクラスでは、自信を育てながら、新しいチャンスに挑戦する力を身につけることができます。 楽しく、安心できる環境で、グローバルな未来への一歩を踏み出しましょう！		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業説明、英語で自己紹介、写真撮影で使う英語表現
	2	英語総合	国際的なキャリアに必要な写真祭やコンテストの紹介
	3	英語総合	英語でポートフォリオレビューの練習
	4	英語総合	屋外実習(訪日外国人旅行者に英語でインタビュー + 写真撮影)
	5	英語総合	実習の発表会
	6	英語総合	実習の発表会
	7	英語総合	撮影プロジェクトプレゼンテーションの練習
	8	英語総合	国際写真コンテストへ英語で応募準備
	9	英語総合	国際写真コンテストへ英語で応募準備
	10	英語総合	屋外実習(訪日外国人旅行者に英語でインタビュー + 写真
	11	英語総合	実習の発表会
	12	英語総合	実習の発表会
	13	英語総合	英語でポートフォリオレビューの練習
	14		
	15		
後期	1	英語総合	後期授業説明、休み期間にやったことを英語で説明する
	2	英語総合	英語でポートフォリオレビューの練習
	3	英語総合	屋外実習(訪日外国人旅行者に英語でインタビュー + 写真撮影)
	4	英語総合	実習の発表会
	5	英語総合	実習の発表会
	6	英語総合	ゲストスピーカー
	7	英語総合	撮影プロジェクトプレゼンテーションの練習
	8	英語総合	英語でポートフォリオレビューの練習
	9	英語総合	英語で写真・アートドキュメンタリー
	10	英語総合	グループディスカッション
	11	英語総合	外国人モデル撮影、英語で指導練習
	12	英語総合	実習の発表会
	13	英語総合	グループディスカッション
	14	英語総合	英語でポートフォリオレビューの練習
	15	英語総合	英語でポートフォリオレビューの練習

評価方法	習熟度・理解度、授業態度、自助努力
テキスト	授業配布プリント

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	メディア論		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	関 貴尚		
授業概要	本授業では、「メディア」について考えます。 メディアというと、マスメディアやソーシャルメディアなどが馴染み深いものですが、情報を伝達する際に空気のようにまとわりつき、切り離すことができない要素もまたメディアです。そのメディアがどのようなものなのかを理解し、それによって社会や人々の感情がどのように動かされてきたのかを考察します。 そのため本講義では、ファッション、アイドル、戦争、死、政治などを、メディア（新聞、ラジオ、テレビ、インターネットなど）の視点から読み解きます。 なお、本講義では、グループワークおよびオープンチャット機能を用いて、授業中に質問やコメントを募集する場合があります。 本講義を履修することにより、以下の能力の修得を目指します。 1.メディア特性を理解し、自らの制作に活かす。 2.メディアという観点から分析・観察する視点を獲得する。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	イントロ	「メディア」とは（メディアの概念・種類）
	2	講義	ファッションとメディア１
	3	講義	ファッションとメディア２
	4	講義	アイドルとメディア１
	5	講義	アイドルとメディア２
	6	講義	SNSというメディア
	7	講義	戦争とメディア１
	8	講義	戦争とメディア２
	9	講義	メディアと技術革新
	10	講義	死とメディア
	11	講義	映画『ドントルックアップ』から考える
	12	講義	音楽とメディア
	13	授業内課題	メディアの特性について言語化する
	14		
	15		
後期	1	イントロ	前期の復習（メディアとは）
	2	講義	政治とメディア１
	3	講義	政治とメディア２
	4	授業内課題	ジョージ・オーウェル小説『１９８４年』から考える
	5	講義	スポーツとメディア１
	6	講義	スポーツとメディア２
	7	講義	ファンとメディア
	8	講義	恋愛とメディア
	9	講義	メディアと情動
	10	講義	アニメとメディア
	11	講義	アートとメディア１
	12	講義	アートとメディア２
	13	講義	差別とメディア
	14	講義	ジェンダーとメディア
	15	授業内課題	メディアに支配されないために

評価方法	授業中の出席回数、授業へのリアクション、提出課題で判断。期日通りの課題提出や発表ができない場合、単位は与えられま
テキスト	

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	美術造形論		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	小林 麻衣子		
授業概要	写真と美術は切り離すことはできません。この授業では、写真表現に役立つと思われる美術的な視点からのものの捉え方を得ることを目指します。写真と美術の歴史を年代に沿って紹介し、様々な作家の取り組みを通して、自己の表現を考えます。また、実際にインスタレーション展示を企画し作り上げる経験もします。様々な角度から写真と美術の理解を深めていきます。とらえがたい現代の多様な表現のなかで「写真とは何か」という問いを、ともに多角的に考察する場とします。（授業内容は状況に応じて変更する可能性もあります） 【到達目標】 ・写真と美術の作家や作品、考え方を多面的に知ることで、各自の表現力をより豊かにすることを目指す。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	自己紹介
	2	講義	写真と美術の歴史を知る①（写真の起源から）
	3	講義	写真と美術の歴史を知る②（1930年代～50年代の表現）
	4	講義	写真と美術の歴史を知る③（1930年代～50年代の表現）
	5	講義	写真と美術の歴史を知る④（1950年代～70年代の表現）
	6	講義	写真と美術の歴史を知る⑤（1950年代～70年代の表現）
	7	講義	写真と美術の歴史を知る⑥（1980年代～2000年代の表現）
	8	講義	写真と美術の歴史を知る⑦（1980年代～2000年代の表現）
	9	講義	写真と美術の歴史を知る⑧（2000年代～現代の表現）
	10	講義	読書会（写真を学ぶ上で重要な書籍を知る）
	11	展覧会見学	美術館やギャラリーで展覧会を見学（日程変更の可能性有）
	12	展覧会見学	美術館やギャラリーで展覧会を見学（日程変更の可能性有）
	13	講義	まとめ
	14		
	15		
後期	1	ガイダンス	後期の授業の説明
	2	講義	写真を展示から考える①
	3	講義	写真を展示から考える②
	4	講義	写真を展示から考える③
	5	課題制作	インスタレーション展示を想定した作品を考える①
	6	課題制作	インスタレーション展示を想定した作品を考える②
	7	中間講評会	課題について講評、ディスカッション
	8	課題制作	展覧会制作①
	9	課題制作	展覧会制作②
	10	課題展示作業	課題制作②
	11	展示講評会	展示撤去作業、講評会
	12	講義	読書会（写真を学ぶ上で重要な書籍を知る）
	13	展覧会見学	美術館やギャラリーで展覧会を見学（日程変更の可能性有）
	14	展覧会見学	美術館やギャラリーで展覧会を見学（日程変更の可能性有）
	15	講義	まとめ

評価方法	授業の出席回数と、提出課題の評価で総合的に判断します。
テキスト	特になし

2026	区分	選択	対象	Ⅰ部全学年

科目名	社会学		
開講期	前後期	単位数	4
講師名	渡辺 浩平		
授業概要	私たちは日常のなかで「社会的なもの」を生成しています。本授業では、「社会的なもの」をいかに理解できるかを考察します。 前半は主に社会学の理論や各論について講義します。後半は、フィールドワークや文章・写真・動画等の制作、ディスカッションなどを通じて、「社会的なもの」を内側から理解するとはどのようなことかを探究します。 本授業の目標は、多様な生き方や価値観を内側から理解し、別の生き方の可能性を想像する力を身につけることです。 なお、授業計画は受講生の人数や関心等に応じて変更する可能性があります。		

授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	はじめに	社会調査法としてのフィールドワーク□
	2	社会学とは	社会・文化とは
	3	社会学とは	社会学的思考と概念
	4	学説史	理論と概念① 方法論的全体論
	5	学説史	理論と概念② 方法論的個人主義
	6	学説史	理論と概念③ 社会的相互行為論
	7	社会調査法	研究テーマと問題意識
	8	各論	集団とは：家族、親族、組織
	9	各論	環境と生活
	10	各論	政治と経済
	11	各論	宗教と世界観
	12	まとめ	前期まとめ
	13	テスト	前期テスト
	14		
	15		
後期	1	社会調査法	参与観察：半構造化インタビュー
	2	社会調査法	参与観察：フィールドノート
	3	社会調査法	参与観察：民族誌
	4	社会調査法	フィールドワーク計画
	5	社会調査法	フィールドワーク計画
	6	社会調査法	フィールドワーク計画
	7	社会調査法	フィールドワークの実施
	8	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	9	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	10	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	11	社会調査法	調査結果の整理・ディスカッション
	12	社会調査法	調査報告
	13	社会調査法	調査報告
	14	まとめ	後期まとめ
	15	テスト	後期テスト

評価方法	前期・後期のテスト、授業内課題、授業への参画度などを総合的に評価します。
テキスト	詳細は授業内で配布・指示します。

2026

2026 科目ガイド

《特別科目》

日本写真芸術専門学校

特別科目

2026	区分	必修	対象	全学年

科目名	特別ワークショップ		
開講期	前後期	単位数	2※
講師名	本校講師・招聘講師		
授業概要	時代を象徴する国内外の写真家、業界で注目されているプロカメラマン、新進気鋭のフォトグラファーなどをお招きします。オリジナル作品の本人による解説や出席者の作品講評やワークショップなど、学生自身の創作意欲を高めます。		
評価方法	出席		
備考	招聘講師との日程調整が確定次第、メールにて発表します。なお、一部の授業は学外のギャラリー等でも実		

特別科目

2026	区分	必修	対象	卒業年度生

科目名	卒業作品集		
開講期	後期	単位数	1※
講師名			
授業概要	作品のセレクトからレイアウトまで、実際の編集作業を体験しながら制作を行い、1冊の作品集としてまとめます。		
評価方法	提出		
備考			